



つくる、
ささえる、
ととのえる。

東亜建設工業の仕事。それは、「つくる」こと。

そして、皆様の暮らしを「ささえる」こと。

さらに、環境を「ととのえる」こと。

人と自然の調和をめざす私たちの技術は様々なカタチで、
いつも暮らしの中に活かされています。



Yes! Harmony

東亜建設工業

〒102-8451 東京都千代田区四番町5
<http://www.toa-const.co.jp/>

波となぎさ

Wave & Beach

C O N T E N T S



表紙写真／

「喜びの海」中西康治（「豊かなウォーターフロントコンテスト 2008」入賞作品）

巻頭グラフ

- 02 海辺環境再生プロジェクト2009 ビーチライフinシリーズ
日本ビーチ文化振興協会
- 04 かながわ「みなと・なぎさの祭」
- 05 日本海夕日コンサート～新潟の夕日とともに～
- 06 第1回なんごうシーカヤックマラソン大会
- 07 砂浜美術館

特集 なぎさに親しむ

- 08 かながわ「みなと・なぎさの祭」～相模湾の伝統ある祭と地域の取組～
神奈川県 県土整備部 砂防海岸課 なぎさづくり班 主任技師 吉岡 敦
- 12 日本海夕日コンサート～より多くの輝きを届けたい～
日本海夕日キャンペーン実行委員会 代表 斉藤 秀明
- 15 第1回ビーチライフin呉～広島県かるが浜海浜公園～
NPO法人瀬戸内里海振興会 事務局長 田坂 勝
- 18 第1回なんごうシーカヤックマラソン大会
南郷シーカヤックマラソン大会実行委員会 委員長 松尾浩治／副委員長 田中 直人
- 20 サンドアートをはじめとした砂浜美術館の取組、砂浜の楽しみ方
NPO砂浜美術館 事務局長 村上 健太郎

連載

- 23 なぎさグルメ紀行 第35回
南知多町
南知多町 建設経済部 商工観光課長 吉澤 保則

TOPICS

- 27 平成21年度大規模津波防災総合訓練
中部地方整備局 清水港湾事務所 沿岸防災対策官付沿岸防災調査官 翁長 孝行
- 30 須崎港における津波漂流物対策の取組～『津波による犠牲者ゼロ』を目指して～
国土交通省 四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所 沿岸防災対策官 野町 一司
- 32 国土交通省防災訓練
国土交通省 港湾局 海岸・防災課 災害対策室
- 33 国土交通省港湾局海岸・防災課人事異動

連載コラム

- 34 私と海岸
海での思い出
☆ほ
- 35 波止めとなぎさの釣りバカ日誌
第3話・博多編
やすべえ

コラム

- 36 体験型釣場の安全講習会
公認釣りインストラクター 近藤 康明

お知らせ

- 39 「港湾海岸関係例規集」の販売
港湾海岸防災協議会
- 40 「天橋立物語—その文化と歴史と保全」販売中！
- 41 編集後記

Let's Enjoy BEACH LIFE!!

海辺環境再生プロジェクト 2009 ビーチライフ in シリーズ

日本ビーチ文化振興協会

→「第1回ビーチライフ in 呉」の詳細は本誌 15 ページからご覧ください。

日本ビーチ文化振興協会では、海辺の利用を活性化し、地球温暖化等による海辺における環境問題に対応し、啓発活動を行っていく「海辺を守ろう！運動」に関して、今年の活動テーマを「再利用」とし、海辺で一番たくさん出るゴミであるペットボトルのキャップを回収し、リサイクルベンチを製作して、地域の小学校や児童館に寄付させていただくことにしました。ペットボトルのキャップ約13,600個で、環境にやさしいエコベンチが一つ出来上がります。

この活動を、毎年全国で開催している「海辺環境再生プロジェクト 2009 ビーチライフinシリーズ」のトップバッターとなる、第4回ビーチライフin新舞子からスタートしました。

また、今年は、5月に広島県呉市にて、10月には福岡県北九州市にて、初めての「ビーチライフin」イベントを開催しました。



各会場に登場した「海辺を守ろう！運動」ののぼり



「海辺を守ろう！運動」のメッセンジャーたち



エコキャップの回収

第4回ビーチライフin新舞子

日時：4月26日(日)
場所：新舞子マリンパーク・ブルーサンビーチ(愛知県知多市)
天候：くもり時々晴(最高気温 17度、最低気温 11.6度)
来場者数：8,000名
コラボレーションイベント：ビーチバレー JBVツアー第1戦愛知オープン、第7回新舞子スプリングフェスティバル

今年から知多市主催で開催されることになりました。また、「ビーチ綱引き」がプログラムとしては新たに加わりました。子どもから大人まで幅広い来場者とスタッフによって行われたチーム対抗戦では、チームワークの大切さなどを学ぶよい機会となりました。



ビーチ綱引き



ビーチフラッグス



名古屋港キャラクター「ポータン」も登場

第4回ビーチライフinお台場

日時：5月5日(祝・火)
場所：お台場海浜公園(東京都港区)
天候：曇りのち雨(最高気温 19.9度、最低気温 17.9度)
来場者数：15,000名
コラボレーションイベント：ビーチバレー JBVツアー第2戦東京オープン

昨年に引き続き、地元住民の皆様が中心となって運営されました。あいにくのお天気となり、中止されるプログラムもありましたが、雨が降っても水溜りのできないビーチで、たくさんの方にビーチライフを満喫していただきました。



ビーチヨガ



ビーサン跳ばし



海辺の安全教室

第1回ビーチライフin呉

日時：5月10日(日)
場所：かるが浜海浜公園(広島県呉市)
天候：晴(最高気温 27度、最低気温 15度)
来場者数：7,000名
コラボレーションイベント：海辺を守ろうトークショー

広島県内では初の開催。ビーチバレースクールでは、このシリーズでは初の親子コースを開設。他の地域の会場よりも親子で楽しむ姿が多く見られました。瀬戸内海に浮かぶ島々を眺めながらのリラックスコーナー&海辺図書館でも親子でそれぞれ楽しむ姿を見ることができました。[→本イベント詳細は本誌15ページからご覧ください]



会場全景



ビーチ相撲



海辺の図書館

第3回ビーチライフin新潟

日時：7月26日(日)
場所：新潟西海岸(新潟県新潟市)
天候：曇り(最高気温 28度、最低気温 23度)
来場者数：2,800名

第3回を迎えた今年は、「水と土の芸術祭」や「第1回新潟県ビーチサッカー大会」等とコラボレート。また、今年から新潟西海岸にビーチバレーコートが常設され、地元の協力団体や個人の皆様に愛されるビーチとして、着々と整備が進められています。



ビーチサッカー大会



ビーチバレー大会



稚具の放流

祭り

かながわ「みなと・なぎさの祭」

→詳細は本誌 8 ページからご覧ください。

神奈川県が面する相模湾は、若者が集まる最先端のビーチエリアというイメージをお持ちの方も多かもしれませんが、実は、1年を通じて、たくさんの伝統あるお祭りが開催されています。

江の島天王祭(湘南港)

例年、小動神社と八坂神社の合同祭礼として7月14日に近い日曜日に開催。見どころは、御神輿の海上渡御。



江の島天王祭(湘南港)

はまおり 浜降祭(茅ヶ崎漁港)

神奈川県の無形民俗文化財に指定されている。7月の第3月曜日に開催される。見どころは、朝方、海面で御神輿を練る「暁の祭典」。



浜降祭(茅ヶ崎漁港/茅ヶ崎市撮影)

さぎちょう 左義長(大磯港)

大磯町内で開催される火祭りです。1月の第3土曜日に開催。国の重要無形民俗文化財としても指定される。見どころは、サイトと呼ばれる塔を点火する時間帯。



左義長(大磯港大磯町撮影)

きぶね 貴船祭(真鶴港)

日本三大船祭りの一つで国の重要無形民俗文化財に指定されている。7月27日～28日に開催され、見どころは物揚場付近で海中に入る禊や夜の真鶴港。



貴船祭(真鶴港)

information

神奈川県県土整備部砂防海岸課 〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通1
電話：045-210-6514 <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/sabo/kowan/index.html>

コンサート

日本海夕日コンサート

～新潟の夕日とともに～

→詳細は本誌12ページからご覧ください。

24回目を迎えた日本海夕日コンサートは、新潟市西区の青山海岸にて、8月8日(土)に開催されました。

メインキャストは、もちろん、日本海に沈む夕日！
砂浜に腰を降ろし、波の音を聞き、潮風に吹かれ、一

流アーティストの歌声を楽しむ……気軽に、実に贅沢なステージです。

今年も特設ステージ前は、約5万人もの観客で埋め尽くされました。

日本海夕日キャンペーン事業

1)日本海夕日コンサート

日本海夕日コンサートProgram

- 17:00 Hanna 夕日コーラスキッズ
- 17:30 第20回日本夕日写真大賞・第7回夕日俳句大賞表彰式
- 18:15 やなわらばー 中西圭三 THE BOOM
- 20:30 フィナーレ



沈む夕日とともに音楽を楽しむ

2)夕日コーラスキッズ



当日参加アーティストの中西圭三さんによる直接指導

3)夕日アートプロジェクト



ステージを彩るステージアート



海岸を照らすランドアート

4)第20回夕日写真大賞



入賞作品による写真展が開催された

5)第7回夕日俳句大賞

- 大賞 藤寝椅子胸に夕日の沈みけり
(今井誠一/新潟県)
- 優秀賞 また死後も端役のつづく夕焼かな
(青木久美子/新潟県)
- 滴りの一粒ごとの落暉かな
(飯塚春香/埼玉県)
- 芋の露夕日転がすばかりなり
(高橋喜和/東京都)
- 蜘蛛の囀をすりと抜けし大夕日
(渡部波海子/埼玉県)

6)萬代橋サンセットカフェ



カフェでゆったりとしたひとときを過ごす

information

日本海夕日キャンペーン実行委員会事務局

〒951-8068 新潟県新潟市中央区大川前通7番町1243 電話：025-228-5227 <http://www.yuuhi.net/>

ビーチスポーツ

第1回なんごうシーカヤックマラソン大会

→詳細は本誌 18 ページからご覧ください。

6月7日(日)、宮崎県新日南市の誕生を記念して、「第1回なんごうシーカヤックマラソン大会」が、日南海中公園にて開催されました。シーカヤックの全国大会は、県内で初めての開催となります。

北は北海道から南は鹿児島まで、全国から76名の参加者が集まり、栄松ビーチを発着点として、南郷特有の穏やかな波や、島の点在する絶景を楽しみながら、シーカヤックによる手漕ぎでのタイムを競い合いました。

大会前日の6月6日(土)には、参加者のみなさまは、^{おび}飫肥や^と串間市の都井岬といった県内の観光地を巡ったり、夕方から開催されたシーカヤックマラソン大会前夜祭にて、地元グルメを堪能したり、新たな交流を深めたりと、大会前の貴重な時間をそれぞれ満喫されたようです。

大会当日は心配だった天候も、試合開始時刻にはすっきりと晴れ渡り、準備は万端。全長16キロメートルの完走を目指して、レースが開催されました。大会は無事終了し、参加者のみなさまからも好評をいただきました。

シーカヤックの楽しみ方と、南郷の町の魅力をどんどん伝えるためにも、第2回、そして、第3回と、毎年大会を開催できるよう、地元の方々と連携して頑張っていけたらと思います。

新日南市誕生記念 なんごうシーカヤックマラソン大会
開催概要

[日程]

6月6日(土) 受付・コース説明会・前夜祭(交流会)

6月7日(日) 本大会(タンデムの部/シングルの部)・表彰式

[コース全長] 16キロメートル

[会場]

宮崎県日南海岸国定公園

南郷町栄松ビーチ

海中公園海域 スタート・ゴール

information

なんごうシーカヤックマラソン実行委員会

〒889-3207 宮崎県日南市南郷町東町14-11 南郷町商工会内

電話：0987-64-1125 FAX：0987-64-0631

お問い合わせ時間：午前10時から午後16時

<http://www.icchaga.net/> (いっチャがねっと)



みんないっせいにスタート



美しい島の景色を堪能しながらレースを楽しむ



ゴールの瞬間！親子での大会参加も多かった



前夜祭が開催された「道の駅」なんごうでは、ジャガランダが咲き誇る



修学旅行で来た子供たちとシーカヤック体験教室

海辺の芸術

砂浜美術館

→詳細は本誌 20 ページからご覧ください。

1989年、「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です」というコンセプトのもと、世界中にただ一つの美術館が大方町(現：黒潮町)に誕生しました。

空と海と砂浜でできた美術館です。自然そのものが作品だから、24時間、365日オープン。BGMは波の音、夜の照明は月の光……。時の流れ、季節の移り変わりによって展示物や作品も変化します。こうした展示物をもっとたくさんの方々に知っていただければと考え、私たちが「砂の彫刻」や「Tシャツアート展」など、四季折々のオリジナル企画を行っています。

砂浜から地球のことを考える。

時代を少し動かせるのは、一人ひとりの感性の集まり。

想像し、発信していくためには、新しい考え方や感性が常に必要となってきます。さまざまな人の新しい感性と出会いながら、私たち自身の感性をさらに研ぎすまして、作品を作っていこうと考えます。「砂浜美術館」の5つの文字は「考え方」のキーワード。この場所から人々が生きていくために大切なことを発信していきたい。こうした思いのもと、私たちは考え、行動しながら、「今、地球にとって大切なことを伝えていく作品」を作り、発信しています。

何もない砂浜であっても、眺めていると、今まで見過ごしてきたものがかけがえのないものであることに気づくのです。



ここが美術館です



空と海の色が映えるTシャツアート展



迫力のある砂像



砂浜にあるものはすべて展示物です

information

NPO砂浜美術館事務局 〒789-1911 高知県幡多郡黒潮町浮鞭3573-5 電話：0880-43-4915 <http://sunabi.com>

かながわ「みなと・なぎさの祭」

～相模湾の伝統ある祭と地域の取組～

神奈川県 県土整備部 砂防海岸課 なぎさづくり班 主任技師
吉岡 敦
Atsushi YOSHIOKA

かながわ 「みなと・なぎさの祭」

神奈川県が面する相模湾は、湘南海岸として、連日のお天気ニュースで江の島が映し出され、七里ヶ浜沿いを江ノ電が走り、夏には海の家がテレビ放送されるなど、若者が集まる流行最先端のビーチエリアというイメージをお持ちではないでしょうか。

実はこのエリアで、たくさんの伝統あるお祭りが開催されていることをご存知でしょうか。そして、こうしたお祭りは港湾や漁港施設を利用しながら開催されています。

ここでは、神奈川県が管理する地方港湾の湘南港、大磯港、真鶴港

及び茅ヶ崎市が管理する第1種漁港の茅ヶ崎漁港を利用して行われている伝統行事を紹介し、みなととなぎさと祭りとのつながりについて紹介させていただきます。

江の島天王祭(湘南港) ※①

湘南港を舞台に繰り広げる江の島天王祭は、江島神社の境内にある八坂神社と鎌倉市にある小動神社の合同祭礼です。

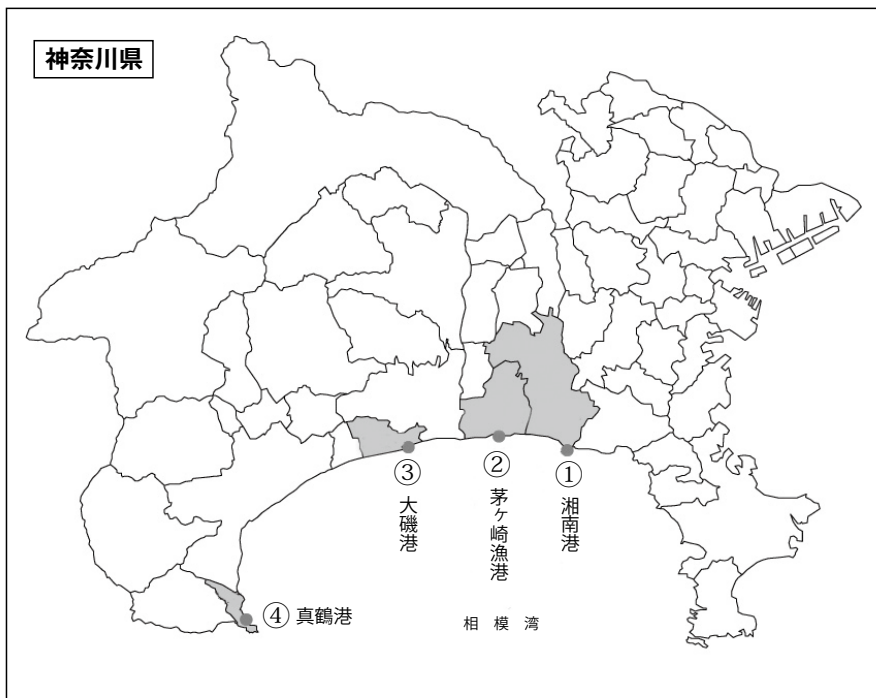
見どころは御神輿の海上渡御で、御神輿が波間で揉み合う姿はとても勇壮です。

湘南海岸の初夏の風物詩として、「かながわのまつり50選」にも選ばれ

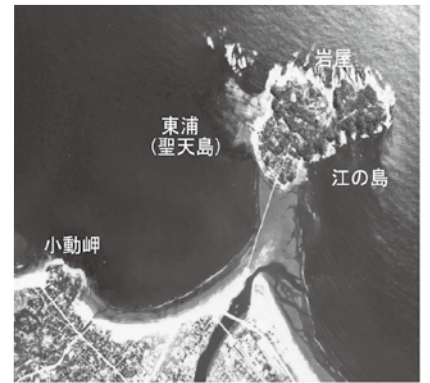
ています。

● 江の島天王祭の由来

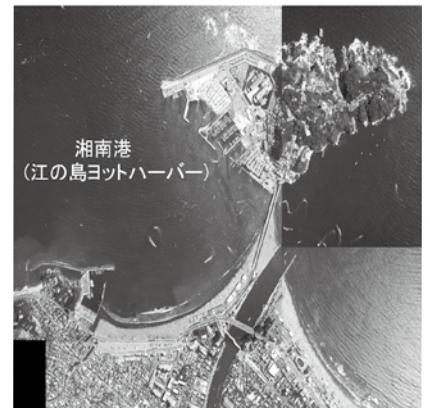
江の島天王祭の由来は、その昔、腰越の小動神社の御神体が巨波で海に流され、江の島の漁師が岩屋近辺の海でまばゆく光るものを見つけ、それを東浦に持っていき、真水に清めて八坂神社に祀ったのが始まりと言われています。例年、小動神社と八坂神社との合同祭礼として、7月14日に近い日曜日に開催されています。なお、東浦は現在



位置図



埋立前の江の島(昭和29年神奈川県撮影)



埋立後の江の島(平成8年神奈川県撮影)



現在の聖天島

の湘南港中央緑地にある聖天島付近のことを言い、湘南港建設時の埋め立てによって、現在は陸地から見ることができます。天王祭当日は、島の人々が列をなしてお囃子を奏でるなか、江島神社から宮出しされた御神輿が参道を練り、湘南港北緑地から御神輿ごと海に入る海上渡御が行われます。

● 地域の取組

湘南港は、1964年の東京オリンピックを契機に江の島の東浦付近を埋め立て、整備しました。以来、江の島旧島部と湘南港は、それぞれが日本を代表する観光地とヨットハーバーとして機能する一方で、相互に関連する面が少ない状況にありました。そこで、これらの素晴らしい資産を相互に活用し、さらなる発展を目標として、平成18年5月に「湘南港(江の島)みなとまちづくり協議会」が組織され、江の島天王祭ヨットレースや、船から祭を見るイベント「江の島天王祭を海から見てみよう」を平成19年度から平成21年度までの3回開催いたしました。

イベントでは、海からの観覧希望

者を募り、船と祭の両方を楽しんでいただきました。また、海に漂うヨットは、ホーンを鳴らし、初夏の晴天に青い旗をたなびかせ、祭りをバックアップしました。

以上のように、伝統ある江の島天王祭において、現代の土木施設である湘南港を利用し、ヨットマンがお祭りのサポーターとして参加したことは、とても意義深いことだと思います。

この取組は、江島神社関係者を始め、江の島島民やヨット利用者の皆様のご協力なくしては実行できません。今後、このイベントを通じて湘南港を含む江の島が一体となって、さらに活性化することを期待しています。



江の島参道を練る御神輿



海上観覧艇への乗船



湘南港北緑地からの海上渡御



海上から応援する協議会のヨット

江の島天王祭 ～湘南港～ (開催日)

○7月14日に近い日曜日

(行程)

○江島神社境内 9:30頃

○江島神社参道 10:00頃

○海上渡御 11:00頃

(アクセス)

○小田急線

片瀬江ノ島駅 徒歩10分

○江ノ電

江ノ島駅 徒歩15分

○湘南モノレール

湘南江の島駅 徒歩15分

浜降祭 (茅ヶ崎漁港) ※②

はまおりさい
浜降祭は、夜明けとともに茅ヶ崎市と寒川町の神社から40余の御神輿が集まり、茅ヶ崎市南湖(茅ヶ崎漁港西側)の砂浜から海に入るお祭りです。海面で御神輿を練る姿は壮観です。朝焼けに照らされる姿から「暁の祭典」とも呼ばれています。

また、浜降祭は昭和53年に神奈川県「無形民俗文化財」に指定され、

昭和57年には「かながわのまつり50選」にも選ばれています。

● 浜降祭の由来

浜降祭の起源については諸説ありますが、1838年に寒川神社の御神輿が大磯町国府本郷に渡御した帰り、相模川で寒川の氏子と地元の氏子が争いを起こし、川にご神体を落とし、ご神体は行方不明になってしまいました。数日後、茅ヶ崎市南湖の網元である孫七さんが漁の最中にご神体を発見し、寒川神社に届けたことを契機に、毎年同神社の御神輿が、そのお礼のため南湖の浜に赴き、^{みそぎ}禊をするようになったと言伝えられています。

一方、江戸時代後期に幕府がまとめた「新編相模国風土記稿」によると、鶴嶺八幡宮では、寒川神社のお礼参りよりずっと古い時代から、心身の罪やけがれを清める禊の神事を行うため、渡御が行われていたとあります。

● 観覧のコツ

茅ヶ崎市産業振興課の職員の方

の話では「何時頃に行けば、御輿が海に入る姿を見ることができますか?」という問い合わせが多いそうです。

御神輿が海に入るのは、入場時の午前5時～7時の間と、式後御輿が帰路に出発する「お発ち」の午前8時頃で、通常お発ちの際に海に入ることが多いので、午前8時頃がおすすめだそうです。

ただし、8時では見やすい場所で見られるとは限らないため、もう少し早めに来る方がよいとのこと。

浜降祭 ～茅ヶ崎港～

(開催日)

○7月第3月曜日(海の日)

(行程)

○一番神輿が到着 5:00頃

○合同祭開式 7:00頃

○お発ち(海へ) 8:00頃

○終了 9:00頃

(アクセス)

○東海道線

茅ヶ崎駅 徒歩20分

○茅ヶ崎駅から臨時バス



浜降祭合同祭開式 (茅ヶ崎市撮影)



勇壮な禊 (茅ヶ崎市撮影)

さぎちょう

左義長（大磯港）※③

左義長は、道祖神の火祭りのことで、大磯町ではセトバライ、ドンドヤキ、ダンゴヤキといった呼び方が一般的です。

正月飾りやダルマを集め、ワラや松などを使って仮小屋をつくります。仮小屋では子どもたちが籠もり、餅を焼いて食べたりして過ごします。そして、当日に小屋をこわし、サイトと呼ばれる塔をつくって燃やします。

この行事は大磯町内至るところで行われていますが、特に大磯の左義長として国の重要無形民俗文化財に指定されている大磯港海岸を中心とした行事は規模が大きいことで知られています。

なお、この左義長に利用される松の一部は湘南海岸の砂防林を剪定し、発生した松を利用しています。



高さ8mにもなるサイトづくり（大磯町撮影）



点火したサイトで福団子あぶり（大磯町撮影）

左義長 ～大磯港～

〈開催日〉

○1月第3土曜日

〈行程〉

○サイト点火 19:00

〈アクセス〉

○東海道線

大磯駅 徒歩8分

きぶね

貴船祭（真鶴港）※④

貴船祭は、国の重要無形民俗文化財に指定されている伝統あるお祭りで、日本三大船祭りのひとつとして、勇壮で華やかな中に、祭礼のゆかしさがうかがえるお祭りです。

貴船祭は「恩返しのみつり」と言い伝えられてきました。漁業や海運業、石材業界における大漁や安全の祈願とともに、また、日常の安泰な活動の営みへの大いなる加護に深い感謝の心を込めて、夏の真鶴の熱気をさらに高めつつ、勇壮・華麗に繰り広げられます。

このお祭りは、7月27日と28日の2日間にわたって行われ、初日は、貴船神社の御神輿が船で海上を渡り、対岸のお仮殿に向かいます。御神輿が上陸後、船揚場附近で海中に入るなど勇壮な禊の後、お仮殿に^{じゅぎよ}入御します。

2日目はお仮殿を出た御神輿が町内を練り、海上を渡って貴船神社に戻ります。この町内というのは、真鶴駅の北側を含む町内で、丸一日担ぎとおすには神がかった体力が必要で、筆者は真鶴町役場の御神輿を担がせて頂き、肩の青アザが消えるまでに2週間かかりました。

日中は色とりどりの船が真鶴港内を航行し、船を揺する若人の活気も勇ましいですが、夜の泊地の光景も

すばらしく、物揚場に係留された船が煌々と輝き、とても幻想的です。是非宿泊して雰囲気を経験して欲しいものです。



華やかな小早船



乗船する御神輿

貴船祭 ～真鶴港～

〈開催日〉

○7月27日・28日

〈行程〉

27日 10:00～17:30

28日 8:20～22:00

〈アクセス〉

○東海道線

真鶴駅 徒歩15分

おわりに

これまで紹介させていただいたお祭りは、現代の土木施設である港湾・漁港を上手に利用することによって、多くの人を呼び寄せることができ、それによって、伝統の継承や、次世代へ向けての発信が円滑になされていくものと考えます。

港湾・漁港の整備・管理を通じて、重要無形文化財としてのお祭りを今後もバックアップしていくことは、施設管理者の一つの責務なのかもしれません。

日本海夕日コンサート

～より多くの輝きを届けたい～

日本海夕日キャンペーン実行委員会 代表
齊藤 秀明
Hideaki SAITO

はじめに

新潟県は、約330kmという日本海に面した海岸をもった県です。その中で、新潟市は中心より少し北に位置した、日本海側唯一の政令指定都市です。

その新潟市の中心部からも程近い西区の青山海岸で、「日本海夕日コンサート」は、日本海夕日キャンペーンのメイン事業として毎年開催されてきました。

そもそも、日本海夕日キャンペーンは、今から24年前の1986年——市民活動という言葉すらなかった時代に、新潟市旅館組合の青年部の皆さんが、新潟市への交流人口を増やすため、新潟市の海岸の魅力を広く知ってもらうために、「日本海に沈む夕日」をコンセプトに手作りで立ち上げたのが始まりです。

それから、幾多の困難を乗り越え、今年、24回目を迎えました。

24年目の今年のテーマは「shine」（輝く）として、



位置図

- 1) 夕日俳句大賞
 - 2) 日本夕日写真大賞
 - 3) 萬代橋サンセットカフェ
 - 4) 日本海夕日コンサート
 - 5) 夕日アートプロジェクト
 - 6) 夕日コーラスキッズ
- 等の事業を展開してまいりました。

Shine 1) 夕日俳句大賞

今年で7回目を迎えました「夕日俳句大賞」は、今年も「夕日・海」にまつわる俳句を募集し、1,100句を超える投句をいただきました。その中から、新潟県の今井誠一さんの「藤寝椅子 胸に夕日の沈みけり」が大賞を受賞しました。

Shine 2) 日本夕日写真大賞

今年で20回目を迎えました「日本夕日写真大賞」は、全国のアマチュア写真家から702点の応募をいただき、今年も多種多様なすばらしい夕日を我々に見せつけてくれました。

その中から、今年には青木忠平さんの「高架道下の少年たち」が大賞を受賞しました。

大賞を含め、他の賞に選ばれた約60点の作品展が、新潟ふるさと村アピール館で開催され、多くの皆様に夕日の持つ魅力を伝えられたと思っております。



写真展にて

Shine 3) 萬代橋サンセットカフェ

日本一の信濃川に架かる重要文化財「萬代橋」の袂で、都市の魅力の再発見と、夕日コンサートのPRもかねて、6月1日から7月31日まで、今年もサンセットカフェを開催しました。

川面を吹く風と、夕日、萬代橋、そして、JAZZ を中心とした音楽、新潟の魅力をもう一つ、伝えられたと思います。……もしかしたら、新潟市では一番贅沢な時間の過ごし方かもしれません。



夕暮れ時、JAZZ を楽しみ、カフェで一息

Shine 4) 日本海夕日コンサート

開催日前日の大雨で、我々実行委員会は延期も余儀なし、そんな思いが心をよぎりましたが、8月8日、開催日当日になると、なんとか雨もあがり、無事に開催することができました。

なんと、夕日も見ることができました！ なんとと言っても、このコンサートのメインキャストは「日本海に沈む夕日」なのですから。

とはいえ、出演アーティストも、もちろん重要です。参加された出演者は、新潟を中心に活動するHannaさん、人気女性デュオのやなわらばーさん、シンガーソングライターの中西圭三さん、そして今年デビュー20周年を迎えるTHE BOOMの皆さんと、新潟市で募集した夕日コーラスキッズです。

出演者の皆さんも、そして観客も、みんな輝いていました。ちなみに、このコンサートは、基本的に入場料は無料ですが、一人500円以上のキャンペーン協力金をお願いしています。



たくさんのお客様がいらっしゃいました

Shine 5) 夕日アートプロジェクト

今年も新潟大学教育学部芸術観光講座の学生さんたちが、コンサート会場である青山海岸を、コンサ

ート開催当日しか目にすることができない貴重なアートで彩り、ランドアート、ステージアート、映像作品が展開する、幻想的な空間を作り出しました。

①ランドアート

5年前から砂浜にランドアートを配置しました。

過去には、みんなで拾ってきた流木を使ったランプシェードや、風を感じさせる花型の風車など、市内の小中学生を取り込んでワークショップを重ね、砂浜に表現しました。

今年は、キャンペーン全体のテーマである「Shine」にそって、海の輝きをイメージした、波を表現したランドアートを展開しました。



波を表現したランドアート

②ステージアート

ステージを制作する業者と何度も何度も話し合い、交差する幾本もの紐から浮かび上がるような模様を水面の揺らぎに見立てたステージバックのアートと、宮殿の柱のような立体的な作品で「水の都」を演出しました。

照明との相乗効果や、風にたなびく作品が、より一層、幻想的な空間を演出してくれました。



ステージを効果的に演出するステージアート

Shine 6) 夕日コーラスキッズ

オーディションにより選ばれた約60名のキッズが大舞台に立ちました。新潟の将来を担う子供たちに一流アーティストとの共演という体験と、日本海に沈む夕日のすばらしさを感じてもらい、新潟で生まれ育ったことに誇りを持ってもらいたいと思います。

最初は少し頼りなかった子供たちも、練習のたびに成長し、出演アーティストと共に素晴らしいコンサートを作り上げてくれました。その頑張りは、我々にも大きな感動を与えてくれました。



本番に向けて熱心に練習に取り組むキッズたち

おわりに

なんとと言っても、野外で行われるコンサートだけに天候には勝てません。逆にそれが、コンサートの魅力を増幅しているのかも知れません。

砂浜で行われる日本で一番素晴らしい、アットホームなコンサートが、この「日本海夕日コンサート」ではないかと思っています。

開催までには、実に多くの皆様にご協力をいただき、我々実行委員会も、皆さんの頑張りに何度となく勇気づけられました。毎年、観客の笑顔と出演者の笑顔にパワーをもらい、大変だった1年を、また忘れてしまうのです。

このコンサートは過去に事故が一度もないことと、周辺住民の皆様のご協力により、24年間も続けることができました。これからは、若い人々への引き継ぎをスムーズに行い、関わる人々をどんどん増やしていきながら、50年、そして100年

と続けて、新潟の文化として定着してほしいと願っています。

私たち新潟に住まうもののDNA

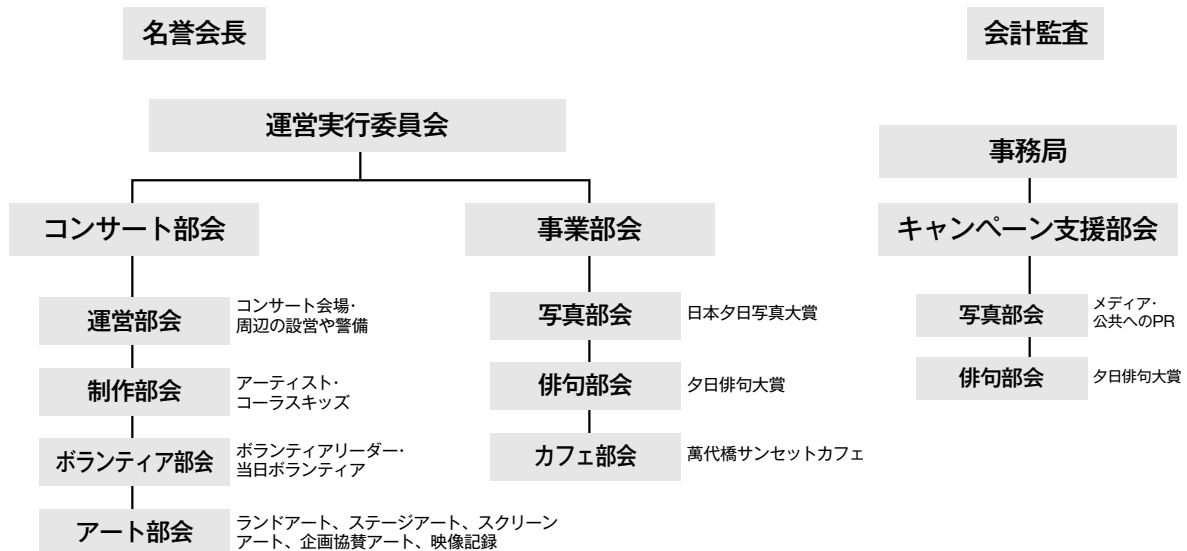
の中には、日本海に沈む夕日に対する畏敬の心が、先祖から連綿と受け継がれているように思います。



沈む夕日とともに音楽を楽しむ

日本海夕日キャンペーン実行委員会組織図

日本海夕日キャンペーン実行委員会は、約25名の市民ボランティアによって組織されています。会社経営者、会社員、学生、主婦など、様々な人々で構成されています。また、日本海夕日コンサートは、実行委員会のほか、総勢約300名の学生を中心としたボランティアで当日の運営をしています。



第1回ビーチライフin呉

～広島県かるが浜海浜公園～

NPO法人瀬戸内里海振興会 事務局長

田坂 勝

Masaru TASAKA

はじめに～開催の経緯～

広島県で初となるビーチライフイベント「第1回ビーチライフin呉」が、2009年5月10日(日)に、呉市かるが浜海浜公園で開催されました。イベントには約7千人(主催者発表)が駆けつけ、地元メディアで報道されただけでなく、ビーチバレーのエキシビジョンマッチが東京の主なテレビ局でも報道されるなど、注目度が高いイベントとなりました。

主催者である日本ビーチ文化振興協会は、国土交通省港湾局が設置した「新たな海辺の文化の創造研究会」(座長・川勝平太氏)の提言を受け、文化・芸術・スポーツ等の海辺イベントの促進、海辺の自然体験や環境教育に係わる啓蒙活動、春夏秋冬・一年を通して海辺を活用できる環境整備およびその管理体制等の構築、これら海辺振興における諸活動を行うことを目的に、2004年

8月、内閣府の認証を得て、特定非営利活動法人(NPO)としてスタートしました。

同協会は、全国でビーチライフイベントを開催し、「海辺を守ろう!運動」の輪を広げつつ、ビーチバレー、ビーチフラッグス、ビーチ相撲等といったスポーツによるビーチライフの普及に力を注いでおり、2009年に、岡山県に続いて、瀬戸内海でのビーチライフイベントの開催を検討しておりました。

一方、瀬戸内里海振興会は、瀬戸内のふるさとの海である里海の保全、再生、創造、活用並びに周辺地域のまちづくりの推進等に関する事業を行うことにより、地域の環境の保全と経済活動の活性化を図ることを目的として、日本ビーチ文化振興協会と同じ2004年に設立され、広島県をはじめとした瀬戸内海で、学術・文化・芸術またはスポーツの振興を図る活動、環境の保全を図る活動、子供の健全育成を図る活動等を展開しております。

特に、海辺の環境保全をスポーツの振興と合わせて図る活動が双方ともに一致していることから、瀬戸内里海振興会では、今回の広島で初となるビーチライフイベント「第1回ビーチライフin呉」の共催者となり、地元における調整、準備、運営を呉市及び協賛企業の方々と一緒に担当致しました。

開催場所は、両者の活動趣旨に

賛同いただき、開催地としての後援をいただけることとなった呉市内で、砂浜の形状、砂の質、交通アクセス等を検討した結果、かるが浜に決定しました。



リラックスコーナーでは親子でのんびり

かるが浜では、毎年、海水浴シーズンの前に、砂浜の傾斜を緩やかにする工事を行っています。今回は、このイベント開催のために工事の時期を遅らせていただいたことで、丁度いい傾斜のコートを設置することができました。呉市の公園担当の方々のご協力に、改めて感謝する次第です。

イベントプログラム

今回の「第1回ビーチライフin呉」では、市民の方々に、ビーチサンとばし、ビーチフラッグス、ビーチ相撲、海辺図書館のプログラムと「海辺を守ろう!運動」でビーチライフを体験していただいたほか、ビーチバレー教室や、ビーチバレー女子トッパスリートによるエキシビジョ



位置図

ンマッチ「海辺を守ろう！カップ」において、一流選手の試合を身近で見ながら、レッスンやチャレンジマッチで、選手と直接ふれあうことができたことが、特に、大きな人気へと繋がったことと思われます。

「海辺を守ろう！カップ」には、実力と人気を兼ね備えた、浦田聖子選手、楠原千秋選手、浅尾美和選手、西堀健実選手、小泉栄子選手、菅山かおる選手が出場したこともあり、朝の第一試合からコートの人垣が囲うような状況でした。改めて、ビーチバレーの人気の高さを感じました。

また、トップ選手のビーチバレーを生で見ることも自体初めての方も多かったようですが、今回、初めて開催された「親子のビーチバレースクール」でも熱心にプレーする参加者の姿が多く見られたことから、スポーツ王国であり、バレーボールの盛んな広島では、ビーチバレー人口の増加に寄与するきっかけにもつながったようです。



海辺を守ろう！カップ



人垣となったたくさんの観客

このイベント開催後、他の市から、同様のイベント開催の希望が寄せられるほど、広い範囲の影響もありました。

「海辺を守ろう！カップ」は、全国で初めての開催となりました。浦田選手・楠原選手のペアが優勝しましたが、3試合ともに、観客はボールの動きに見入って静まりかえる中、スパイクが決まれば盛大な拍手や歓声が出るような、緊張感がありつつも、白熱した試合が繰り広げられました。特に、選手の跳躍力、コンビネーションには、多くの観客が感動させられた様子でした。

ビーサンとばし、ビーチフラッグス、ビーチ相撲には、予選から多くの方が参加し、砂浜の感触と、日頃なかなかできないスポーツを楽しむ光景が見られました。それぞれの競技で有名なインストラクターの方々からの直接指導が受けられたので、ビーチスポーツの楽しみ方は、海水浴だけではないこと、そして、真夏だけではないことを感じていただく良い機会になったものと思います。



ビーチフラッグス

また、ビーチ相撲の玉海力さんからは、「最近では親子で相撲をとることもなくなっているけれど、ビーチであれば、簡単に、けがなく、親子の交流もできる」という説明があり、世代を超えたビーチの楽しみ方への

ヒントもいただくことができました。各競技に参加した方々が、今回身につけたノウハウを、海辺で広めてくれることを期待しております。

「海辺を守ろう！運動」では、ペットボトルのキャップを集めて提出した方に、選手のオリジナル・トレーディング・カードをプレゼントしたこともあり、たくさんのキャップを回収することができました。



キャップを持参してくれました！

また、海辺環境メッセンジャーであるビーチバレーの浅尾選手、西堀選手、浦田選手、ビーチフラッグス世界チャンピオンの遊佐雅美選手、そして、地元選出の衆議院議員である寺田稔先生の5名による「海辺を守ろう！トークショー」で、観客の皆様は、選手たちの海辺に対する熱意を感じたことと思います。



海辺を守ろう！トークショー

特に、ビーチバレー選手にとって、ビーチが試合(仕事)をする場でもあり、リラックスする場でもあるという話は、海面上昇による海浜の損失

は計り知れないことを普及するための運動を一般市民に広げる絶好のチャンスとなりました。

瀬戸内里海振興会では、漁業者、学識経験者等、海辺で仕事をする方々の話を伺い、環境の保全、再生、創造のための事業を展開しておりますが、老若男女が海辺に来て、海辺で活躍する選手の話を知ることも、環境に対する意識を醸成する上で非常に有効な場面であることに気付かされました。その結果、イベント終了後には、「海辺を守ろう！運動」に賛同する趣旨の便りが寄せられるほど、ビーチスポーツの影響力は高いものでした。



海辺の図書館

瀬戸内海に浮かぶ島々を眺めながらのリラックスコーナー&海辺図書館では、保護者がのんびりと過ごす傍らで子供たちが集中して読書をしている姿を見ることができました。海辺で子供が本を読む姿を想像することはあまりありませんでしたが、海外のビーチでは、スポーツに限らず、一日をリラックスして過ごす場所として、公園やキャンプ場と同じような活用がされていると、日本ビーチ文化振興協会から伺っておりました。当日は、日本人の海辺での過ごし方と合うかどうか心配しておりましたが、予想以上に多くの利用者があり、海水浴のために整備

されている砂浜を真夏以外でも有効活用していくという意味で、貴重な社会実験にもなる結果となりました。

■ 地元の期待

呉市は、大和ミュージアム、鉄のくじら(海上自衛隊の潜水艦)館、県民の浜、音戸瀬戸、蒲刈、御手洗をはじめ、海辺の観光拠点が多く、また、24万人の人口規模を背景に、まつり、イベントが数多く開催されております。また、ヨット等、海洋スポーツを含めた子供から大人までのスポーツ人口も多い市ですが、これまで、ビーチスポーツに関するイベントの数は多いほうではありませんでした。しかし、ビーチライフイベントの前日には、かるが浜で、自らネットを張って、熱心にビーチバレーの練習をするグループの姿もあり、通年で、ビーチバレーの練習や大会を開催する場所としても、十分なポテンシャルを持っていることが、主催者や地元の方々にも認識されました。

今回の「ビーチライフin呉」開催にあたり、幅広い多くの企業の方々に協賛をいただきました。また、地元の特産品も、かるが浜において出店いただき、選手、スタッフ、観客の皆様にはありがたいメニューを浜辺で味わうことができました。前日にも、地元関係者からの熱烈な歓迎会を催していただき、主催者と選手は、呉の料理とお酒に感動して、次の日の本番に臨むことができました。当日の晴天は、このような地元の方々の熱意の賜物であったことと思います。



呉名物！ 東郷さんの肉じゃが

■ おわりに

地元経済の活性化、スポーツ振興、海辺環境の保全に対する貢献が、企業活動のためにも重要という意識を大切にしつつ、海辺を核とした、地域振興の推進に対する地元市の期待に応えるためにも、継続的な取組を、呉市、日本ビーチ文化振興協会とも協力しながら、進めたいと考えております。

最後に、今回の「第1回ビーチライフin呉」開催にあたり、短い準備期間の中、大変お世話になりました、日本ビーチ文化振興協会、呉市、協賛企業、地元の方々、ボランティアの皆様、改めて感謝を申し上げます。

瀬戸内里海振興会 事務局

〒730-0012

広島県広島市中区上八丁堀8-23

広島県林業会館9階907号室

電話：082-298-1221

FAX：082-298-1220

http://www.satoumi.org

第1回なんごうシーカヤックマラソン大会

南郷シーカヤックマラソン大会実行委員会

委員長 松尾 浩治

Hiroharu MATSUO

副委員長 田中 直人

Naoto TANAKA

はじめに

宮崎県日南市は、平成21年3月30日に、旧「日南市」・旧「南郷町」・旧「北郷町」が合併し、新「日南市」になりました。

日南市は、宮崎県の南部に位置し、九州の小京都と呼ばれる飫肥(おび)や風光明媚な日南海岸国定公園を抱える、歴史と自然にあふれる、人口5万8千人の観光の町です。黒潮海流による温暖な気候を生かした農業、歴史と伝統ある飫肥杉の生産、近海カツオや遠洋マグロの水揚げも多く、豊かな海の幸に恵まれています。

また、平成16年度に放映されたNHK朝の連続テレビ小説「わかば」の舞台のひとつとなったり、プロ野球球団「広島東洋カープ」や「埼玉西武ライオンズ」のキャンプ地としても賑わっています。

この日南市の中でも、南郷地区(旧「南郷町」)は、日南海岸国定公園の

南端に位置し、おだやかな渚にたたずみ、雄大な海や緑豊かな大島が一望でき、シーカヤックを漕いで大小の島々が点在する景観と透きとおる青い海を満喫できます。この地区で昨年から行ってきた「多島海プロジェクト」の活動をご紹介します。

多島海プロジェクトとは

この「多島海プロジェクト」は、『豊かな自然環境を活かし、海との“ふれあい”を通して人間性豊かな心をはぐくむとともに、宮崎県県南地区の活性化に向け、産業間連携と観光振興のための活動!!』を基本コンセプトとしています。「たくましいNature kidsを育て、明日の県南に活力を」をテーマに、現在、約30名のメンバーで活動しています。

主な活動は、地域の子供たちとのシーカヤック体験教室、地元中学校でのカヌー授業、シーカヤックマラソン大会の開催、そして、県外からの修学旅行の受け入れなど行っています。

シーカヤックの魅力

私たちの活動の主役となるシーカヤックは、老若男女を問わず、小さなお子さまからご年配の方たちまで気軽に楽しめるスポーツで、シーカヤックからの海拔0メートルの視界は、まさに海と一体になり、海上を

滑るような感覚が味わうことができるのが魅力です。

また、自分の行きたいところを目指して漕ぐと、そこには自分だけのその瞬間にしか感じるできない発見があります。その「一瞬」の感覚を求めて、私自身も漕いでいます。

こうしたシーカヤックや南郷の魅力をより多くのみなさまに感じていただければと、本年6月に、新日南市誕生記念「第1回なんごうシーカヤックマラソン大会」を開催しました。

第1回なんごうシーカヤックマラソン大会

新日南市の誕生を記念して開催された「第1回なんごうシーカヤックマラソン大会」には、北は北海道、南は鹿児島から、年齢も8歳から74



位置図



雄大な海や緑豊かな大島の中でのレース



参加者全員無事にゴール!



全国から続々と集まる参加者たち



開会式

歳と全国から76名の参加がありました。こうしたシーカヤックの全国大会は、県内では初めての開催となります。

6月6日土曜日、大会前日の参加受付に始まり、午後6時から前夜祭が、ジャガランダ(世界3大花木)の咲きほこる「道の駅」なんごうで開催され、暮れかかる壮大な景色を背に“マグロの解体ショー”が行われました。また、集まった参加者のみなさまには、カツオのたたき、南郷産完



大迫力のマグロの解体ショー



地元産の完熟マンゴー

熟マンゴー、荒磯汁など、地元の旬の食材をふんだんに使った料理を楽しんでいただきました。特に完熟マンゴーの味には、参加者のみなさまから絶賛いただき、主催者冥利につきる一瞬でした。

夜が更けるにつれ、地元焼酎を飲みながら、島歌や「ジャンベ」の演奏で大いに盛り上がり、シーカヤック愛好家と地元との交流と友好を深めることができました。



前夜祭を盛り上げたジャンベ



地元焼酎で朝まで盛り上がった

さて、一夜明けた6月7日日曜日、大会当日、当初はどんよりと曇りがちだった天候も、スタート時間である午前9時が近づくと、晴れ渡ってきました。

全長16キロメートルの完走を目指して、シングルの部とタンデムの部(2人乗り艇)は、同時にレースがス

タートしました。

また、レース中には、砂浜で子供たちを対象にした体験教室を開いて、シーカヤックを楽しんでもらいました。



シーカヤック体験教室

レース開始後、1時間を経過するとトップがゴールし、それに続いて、残りのシーカヤッカーたちが続々と無事にゴールをしました。参加者のみなさまには南郷の海を満喫していただいたようで、無事に終了し、ほっと胸をなでおろしました。

レース終了後は、地元婦人部の方々による味噌汁のふるまいや、地元特産品やマンゴーの販売などで賑わい、表彰式を終えて、全日程が終了しました。

おわりに

今回、大会を開催するにあたり、参加者のみなさま、日南市をはじめ、漁業協同組合・海上保安庁・商工会議所などの各種団体、ボランティアでご協力いただきました地元のみなさまに厚く御礼申し上げます。

今後も大会が毎年開催できるように、南郷地区を盛り上げるマリンスポーツとして、シーカヤックが定着できることを目指して、地域のみなさまと一緒に頑張っていきたいと思えます。

サンドアートをはじめとした 砂浜美術館の取組、砂浜の楽しみ方

NPO砂浜美術館 事務局長
村上 健太郎
Kentaro MURAKAMI

はじめに

～美しい砂浜が美術館です～

「日本一遠いところかもしれませんね」

自分たちの町の話をする、そんなコメントが返ってくることもある。距離的にはもっと遠いところはたくさんあるが、交通の便を考えると、その通りなのだ。

その昔、四国を制圧した長宗我部元親が、この町の海岸沿いに広がる松原を見て、「素晴らしい松原だが、こんなに遠くでは知られることもないだろう」と言った記録が残っている。

場所は、高知市から西へ約100km、空港から約3時間、高知県の西部に位置する黒潮町。人口は約13,000人、農業と漁業の一次産業が主となる町だ。黒潮が寄せる温暖な土地で、広い砂浜と松原が開放的な空間を演出している。

この町で、1989年に「砂浜美術館」は生まれた。

「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」と

いうコンセプトが物語るように、長さ4km続く、建物のない美術館だ。観光ガイドブックには、西南地域の観光スポットとしても掲載されているため、イベント時以外にも訪れる人たちがいる。地図を頼りに砂浜美術館を訪れた人から、こんな電話をうけることがある。

「今、砂浜にいるのですが、砂浜美術館はどこですか？」

砂浜に立って、その人なりの作品を見つけたとき、そこが砂浜美術館になるのだ。



砂浜美術館へようこそ！

コンセプト

～砂浜が美術館だとすると～

作品は24時間365日展示され、時の流れるままに変化する。BGMは波の音。照明は月の光……。

砂浜美術館が生まれた1989年。黒潮町主催の「松原サミット」に向けての企画の中に、「Tシャツアート展」というイベントの提案があった。

それは東京在住の写真家、北出博基氏の作品をTシャツにプリントして、ちょうど洗濯物を干すように

展示するという内容だった。この企画を持ち込んだ、高知在住の梅原真氏は、Tシャツアート展を行うにも、しっかりした考え方が必要であることを強調した。

この話を持ち帰った地元の行政職員は、「面白いことをするから」という誘い文句で仲間を集め、企画を練った。

一見、目新しいイベント。マスコミが取り上げそうなビジュアルだが、目新しさだけで開催しても、その場限りの一過性のイベントで終わってしまう。やるからには、そのイベントを行うための考え方が必要だ。そのことは、当時青年団活動をしてきた地元のものたちが、イベントを繰り返す上でも感じていたことだった。

いろいろ考える中で、「別にTシャツや砂の彫刻だけが作品と考えなくても、沖を泳いでいるクジラも、松原も、みんな作品として考えたらええと思う」という発想が出てきた。そこから、「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」というコンセプトが生まれ、砂浜美術館が始まった。

このコンセプトを伝えるために、「砂の彫刻」、「Tシャツアート展」をはじめとしたイベントを行うという考えに行き着いたわけである。

当時のスタッフは、都会にあこがれ、そこに追いつこうとしていたという。しかし、都会は自分たちの追



位置図

砂浜が美術館だとすると、「美しい松原」が作品です。

沖を泳ぐ「くじら」が作品です。

砂浜に咲く「らっきょう」が作品です。

卵を産みにくる「海亀」が作品です。

砂浜をはだして走り、貝殻を探す「こどもたち」が作品です。

流れ着く「漂流物」が作品です。

波と風がデザインする「模様」が作品です。

砂浜に残った「小鳥の足跡」が作品です。

いかける速さよりも、もっと早いスピードで進んでいく。ふと、自分の足元を見つめるきっかけが、この砂浜美術館だったのである。そして、砂浜美術館が始まって以来、このコンセプトは様々な形で具現化していった。



Tシャツアート展

具体的な取組

～考え方を伝えるイベント～

砂浜美術館の考え方を多くの人に知ってもらうため、年に何回かイベントを行っている。「Tシャツアート展」や、「漂流物展」、海岸沿いの入野松原に全国から公募したパッチワークキルト、エコバックを展示する「潮風のキルト展」などである。4月から10月にかけては、「ホエールウォッチング」も実施しており、「館長」に会うこともできる。

特にイベントを行っていないときは、自然の常設展を楽しんでいた

く。何もない砂浜を眺めていると、今まで何気なく見過ごしてきたものが、かけがえのないものであることに気づく。普段見慣れたものでも、ちょっと見方を変えたら宝物になる。そんな新しい価値観を創造するオリジナルの企画を通じて、心豊かに、楽しく暮らすためのアイデアを伝えていきたいと考えている。いくつか取組を紹介する。

□砂の彫刻(サンドアート)

大人が砂遊びに真剣に取り組み、砂の固まりに彫刻を施す。砂像をつくるためには、砂浜がきれいではなくてはならない。砂にまみれているうちに、ふるさとの豊かな自然に気づくのである。

砂像制作の舞台は、黒潮町の砂浜から全国へ、そして世界へと広がっている。砂浜美術館の砂像チームは、2002年・2006年にカナダで行われた世界大会にも出場した。

砂浜美術館の活動フィールドである入野の浜の砂はきめが細かく、砂像をつくるには適した砂である。私は、彫刻のセンスがないので、砂像チームが作った作品を見て、「すごいなあ」と感心するばかりだが、作品はユーモアにあふれた楽しいものばかりである。



砂像制作風景

毎年12月には地元の小学生と一緒に、土佐くろしお鉄道の土佐入野駅前に、駅前砂像を作る。年末年始、都心部から里帰りする人にとって、この砂像は風物詩になっている。また、全国にも何箇所もある砂像チームと、支部交流会を行ったり、各地で開催される大会にも参加をしている。

私には、忘れられない光景がある。地元の子どもたちと、砂浜で小さな砂像を作った時のことである。

子どもたちの横で、砂浜美術館の学芸員でもあり、砂像作りを長年やってきたスタッフのTさんが、素敵なお城を作っていた。子どもたちが帰ったあと、その前でじっと座っている。徐々に波が満ちてきて城に近づいてくる様子を見つめていた。ついに、水が到達して、少しずつ城が削られていく。そしてついに波にさらわれて崩れ、そこには何もなかったかのような、いつもの波打ち際の風景が広がった。

Tさんが満足そうに(?)帰っていく姿を見て、この跡形もなくなる不思議さも、砂像の魅力だと感じたものだ。

そのTさんに「あなたにとっての砂浜美術館はなんですか?」と聞いたところ、「かけがえのない遊び場」という答えが返ってきた。

子どもの頃、砂場遊びをした経験

は誰にでもあるだろう。大人になって砂浜で本気で砂遊びをすると、こんな砂像ができあがる。それを「遊び場」と表現されたことに、とても納得をしてしまった。

入野の浜は、ウミガメの産卵地でもあるため、現在では大規模な砂像づくりは行われていないが、ウミガメの産卵期をはずして、近年、「Tシャツアート展」開催時には、会場で砂の彫刻を制作している。



駅前砂像。里帰りした人たちを笑顔で迎える

□シーサイドはだしマラソン

「はだして走る」ということが第一条件のマラソン大会。長くて美しい砂浜でなければ絶対にできない。世界広しと言えども、はだしてマラソン大会ができる美術館はここだけ。毎年5月の連休中に開催され、全国から、はだしのランナーが集まる。

□Tシャツアート展

公募のイラストや写真をTシャツにプリントし砂浜に展示をする「Tシャツアート展」。毎年、40以上の都道府県から約1,000点の作品が寄せられ、会期中は10,000人を超える来訪者がある。一枚一枚も作品だが、全体としての風景も一つの作品である。応募作品は展示のあと、潮の香りとともに、応募者へ届けられる。風が吹けば、ひらひらと舞い、波が寄せれば水面にTシャツが映る。「あ、本当にここは美術館なんだ」

ということを実感できる。



Tシャツアートのなかを駆け抜けるはだしのランナーたち

□漂流物展

長さ4kmにわたる砂浜美術館には、様々な漂流物が打ち寄せる。燃やせばゴミでも、集めたら展示物になる。楽しみ方も様々である。「手紙の入った漂流ビン」など、流れてきた旅に思いを寄せ、文学的に楽しんだり、アートの材料として芸術的に楽しんだり、環境問題を考えたり、種子や貝殻を集める人もいる。様々な角度からアプローチできることが魅力であり、砂浜美術館で集めた漂流物は、年に一回漂流物展というかたちで、多くの人たちにその面白さを伝えている。拾っても、持って帰れない漂流物を写真におさめた「漂流物拾った写真展」の募集も、漂流物展に合わせて行なってきた。

漂流物展を続ける中から、全国で活動するビーチコーマー（漂流物を集めていろいろな角度から楽しむ人）とのつながりが生まれた。海で囲まれた日本では、その地域によって特有の漂着物が流れ着く。そうした情報を共有し、海的环境について考えていこうと始まった学会だ。現在、砂浜美術館はその事務局を担当しているが、40都道府県220名の会員がいる。また、会員でなくても参加できるメーリングリストには、400名の登録がある。年に1回開催する大会では、毎年開催場所を変えて

会員が集まり、研究発表や交流を行っている。浜に打ち寄せるものを、漂流物という地域資源としてとらえ、砂浜から発信したことが、日本各地で同様に活動している人たちとの交流を生んだ。



砂浜をきれいにしながら、展示物も堪能

今後に向けて

砂浜美術館は、そもそも観光振興や、地域活性化のためだけに始まったわけではなかった。関わった一人一人が、この考え方を自分なりに楽しみ、そして町を見つめ直し、活動と仲間の輪を広げていった。新しい感性や考え方に触れることは、活動の原動力を作ってくれる。

こうした取組を通して、この長さ4kmの砂浜が「人と自然の付き合い方」を教えてくれるのではないかと考えている。しかし、地域の人たちにとっては、普段当たり前にある砂浜を、砂浜美術館ととらえることが、まだ十分には浸透していない側面もある。

今後は、この砂浜を通じて、地域の人たちと訪れる人たちが、交流できる仕組みを様々な場面でつくり、「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」という、この一文から生まれた、砂像をはじめとする様々な作品を、今後もこの黒潮町から発信していきたい。

南知多町

はじめに

南知多町は、愛知県知多半島南部に位置し、半島の先端と沖合に浮かぶ篠島、日間賀島等の島々からなっています。北は美浜町、東は三河湾、南西は伊勢湾に面した町です。

また、三河湾国定公園、南知多県立自然公園に指定された自然環境に恵まれた町であり、名所・旧跡、文化財、祭り等の観光資源にも恵まれています。



自然環境に恵まれた南知多町

約8,000年前の遺跡も発見され、この町で、縄文時代から人々が生活していたことがわかります。長い期間を通じて漁業と稲作を中心とした生活が続いてきましたが、中世には



位置図

焼き物も生産され、江戸時代には、東西海上交通の要衝の地として海運業も盛んとなったほか、みかん栽培や醸造業も栄えてきました。

農業は、昭和36年に愛知用水が完成して以降、急速に進展しました。さらに、土地改良・農地造成事業など生産基盤の確立を図り、都市近郊農業地帯として発展してきました。

また、水産業においては、生産基盤として漁港の整備を計画的に進め、都市地域への生鮮な魚介類を供給する魚の町・漁業の基地として発展しています。

観光については、明治初期に、潮湯治と称して海水浴客が訪れはじめ、観光地として発展するきっかけとなりました。

港は、8漁港と2港湾あり、特に漁港は愛知県有数の漁獲量を誇る一大漁業基地となっています。港湾については、師崎港が、篠島・日間賀島をはじめ、渥美半島の伊良湖岬及び伊勢志摩の鳥羽への海の玄関として、観光の拠点となっています。

尾州廻船【内海船】

江戸時代の遠隔地輸送の担い手は船でした。船によって日本各地をつなぐ物流網がつけられました。

この時代、長距離航海に活躍した船は、「弁財船」と呼ばれる和船です。1本の帆柱、船主に突き出した水押、板を継ぎ合わせた構造などが特徴です。米を1,000石以上積める大型船も造られたことから「千石

南知多町 建設経済部 商工観光課長
吉澤 保則

船]とも言われています。幕府公認の菱垣廻船・樽廻船をはじめ、阿波（徳島県）、紀伊（和歌山・三重県）、遠江（静岡県）、そして尾張（愛知県）の船などが太平洋沿岸を結ぶ船として活躍していました。



尾州廻船(模型)

日本海側では、北前船が、松前・江差(北海道)などの湊と瀬戸内・上方の湊を結び、蝦夷地の産物を各地に運びました。

江戸時代には、沖合を航海することが一般的になり、航海を定めるのに必要な遠眼鏡や船磁石も利用されました。ただし、江戸・上方間を一度も寄港せずに航海することはできず、伊豆半島南部や志摩半島には、下田・鳥羽などの風待ち湊が発達しました。船内の生活では、安定性を高めた炊きこんろや船徳利、破れにくいように生地が厚いアツシ織などが使われました。

また、航海は難破の危険と背中合わせだったため、船乗りたちは各地の寺社に航海の安全を祈願しました。讃岐(香川県)の金刀比羅宮、大阪の住吉大社、志摩(三重県)の青峰山正福寺などが船乗りの信仰を集め

ました。

内海船の主な航海範囲は、瀬戸内海東半分から江戸までの間です。知多半島の俗謡で内海船は「米船」と言われ、米を主な積み荷としていました。それ以外にも、瀬戸内や上方では、塩・畳表など、江戸やその周辺では、魚を原料とする肥料(干鰯・メ粕)や大豆・小麦などを積み、東西を往復しました。大阪・兵庫などでは北海道産の鱈・鰯の嗜好品を積むこともありました。

当時は、積み荷を湊で買い取り、よりよい条件で売却して、その差額を利益とする「買積」という商いが主流となっていました。これは相場変動や海難事故によっては大きな損害を受ける危険もある商いです。情報を収集・分析して、状況に応じて荷物を積んで運賃を得る「運賃積」を併用しながら、利益を上げる経営手腕が要求されました。

尾張国内には、大小さまざまな船がありましたが、尾張国内の人が所有する大型の荷物運搬用の船を「尾州廻船」と総称します。尾張藩では200石積以上の船を「廻船」として掌握していました。その船主の多くは知多半島に居住していました。内海やその周辺の船は「内海船」と呼ばれ、最盛期には約100艘ほどの船が所属しており、尾州廻船のなかの一大集団でした。

その他、醸造業の発展と結びついた亀崎・半田(半田市)、常滑焼や伊勢(三重県)・美濃(岐阜県)の産物の輸送に便利な常滑、瀬戸内産の塩の輸送を得意とした野間(美浜町)などが尾州廻船の拠点となっていました。

内田佐七家は内海を代表する廻船主として活躍した家です。初代内田

佐七(1790年～1868年)は、文政元年(1818年)、周辺の船主たちの支援を受けてのスタートでした。124石積の船から始まり、翌年には280石積の弁財船に買い換え、経営を拡大していきました。幕末期には10艘近くの船を所有、矢野(三重県津市)や四日市(三重県)に出店を持つ大船主に成長しました。明治時代に入り、蒸気船や鉄道の登場、経済構造の変化などによって廻船経営が難しくなると、しだいに他の業種に経営の重心を移し、19世紀末には廻船業から撤退しました。



一般公開されている内田佐七家

内田佐七家の屋敷は、主屋・座敷・いんきょ・新納屋及び複数の小屋と蔵から構成されています。これらの建物は、棟札や古図などから、明治2年(1869年)に竣工されたことが確認できます。当時、内田家は廻船業を営んでいましたが、屋敷構えは庄屋格相当の規模と格式を備えており、廻船主の屋敷として数少ない貴重な遺構です。

内海東側の一角は、江戸時代に内海船で栄えた船主たちの家が密集していたところ。「住田屋さん」と呼ばれていた内田佐七家とその新家をはじめ、内田七右衛門家、内田七郎兵衛家、中村与三治家などの家が立ち並んでいて、今も当時の面影を残しています。

内田佐七家は、平成18年12月か

ら、毎月第3日曜日に一般公開され、観光ボランティアガイドによる案内も好評です。公開日以外でも、事前に予約していただければ、見学が可能です。

日間賀島のタコ

複雑な潮流と流れ込む矢作川の滋養豊かな淡水によって、日間賀島周辺は魚介類の宝庫として知られています。その新鮮な魚介類を餌としているタコがふんだんに獲れ、甘みがあり、ゆでても固くならない日間賀島特産の「タコの丸茹で」は通年料理の主役級です。「タコの丸茹で」はもちろん、刺身・唐揚げ・タコしゃぶ・タコの酢の物など、タコのフルコースをお楽しみください。低コレステロールで、血液を浄化し、肝機能も高める働きもある、美味と健康、美容に効果があります。



日間賀島周辺は魚介類の宝庫

【たこまつり】

タコの供養と豊漁を祈願する祭りとして行われる「たこまつり」。タコ漁が盛んな日間賀島には、かつて漁師の網に掛かった大タコが仏像をしっかりと抱かえていたという言い伝えが残っています。仏像は島の東集落にある安楽寺に祭られた「たこ阿弥陀(あみだ)」として、島民に親しまれています。祭りは平成4年ごろ、このような島の伝統を子供たちに伝えようとして、イベントを合わせた

企画として始まりました。

祭りの内容は、タコ供養を主とした祭りとして地元小学生によるタコ神輿担ぎや、タコのつかみ取り、太鼓やダンス、そして、最後は打ち上げ花火などが行われます。



タコ神輿

【干たこ】

日間賀島に秋風が吹き出すと、家の軒先に竹串がはめ込まれたタコが、風に踊っている風景によく出会います。

この「干たこ」は、お酒を振って蒸して、熱いうちに薄く裂いて食べたり、たこ飯にしたりして、栄養満点のタコの凝縮された旨みを年中楽しむことができるおふくろの知恵と味です。

また、干たこは、昔から正月のお供え物として神棚や船に供え、豊漁や海上安全を祈願する必需品となっています。



干たこ

極上のとらふぐを喰う

秋から冬にかけて食べるといったらやっぱりフグ。10月に解禁とな

り、3月まで味わうことができます。

フグは、てっさやてっちり、唐揚げに焼フグと、オーソドックスな食べ方はもちろん、趣向を凝らした現地ならではの味もご堪能ください。



様々なふぐ料理

【とらふぐの漁獲量、日本一!?!】

愛知県は、日本で1、2位を争う「天然とらふぐ」の水揚げ量を誇っています。

近年の海流の変化にともない、渥美半島の沖合は天然とらふぐの好漁場になっているのです。現在、知多半島で大切なふぐを傷つけないように、一匹一匹釣りあげる漁法「延縄漁」を行っている漁船は約150隻。全国有数のとらふぐの漁獲量を支えています。



極上の天然とらふぐ

【ふぐの魚醤焼き】

伊勢湾で捕れたカタクチイワシを原料にした、無添加の天然調味料。この魚醤にふぐをつけ込んで焼いた郷土料理「ふぐの魚醤焼き」は地元でしか味わえない逸品です。

【ふぐのイベント】

●ふぐてっさコンテスト

10月12日(月・祝)

日間賀島西港

●篠島ふぐまつり

11月22日(日)、12月20日(日)、
1月17日(日)、2月21日(日)、
3月21日(日)

篠島観光案内所

●日間賀島ふぐまつり

2月7日(日) 日間賀島東西港

内海スイーツロード

尾州廻船内海船の船主の館が密集していた内海には、「内海スイーツロード」——こんな名前をつけたくなるくらい、お菓子屋さんが多いところです。

江戸時代から豊かな文化があった名残りでもあり、また知多四国巡りの巡拝者のおもてなしや、観光客のお土産物として生まれた老舗の和菓子屋さんがたくさんありますが、洋菓子もはやっています。地元はもちろん、観光で内海を訪れる皆さんにも愛されています。

現在は、季節に応じた旬のものや祭りなどに関連した洋菓子も人気で、行列ができるほどです。「日本の渚百選」に選ばれた内海海岸(千鳥ヶ浜)など、渚にちなんだ和洋菓子「知多ごころも」、「なぎさ餅」、「波まくら」、「千鳥ヶ浜」があります。また、海や祭りにちなんだ和菓子や洋菓子もさまざまなラインナップがそろっています。「たこつぼもなか」、「たいばい」、「多幸まんじゅう」、「紅月」をはじめ、昔から人気の和菓子には、「大福餅」、「ふところ餅」、「柚子もなか」、そして、旬の果物洋菓子には、「いち

ごちゃん」や「いちごロール」など、たくさんあります。



知多ごろも



波まくら

篠島の鯛～おんべ鯛～

「日本書紀」によると、伊勢神宮を建立した天皇の一行が伊勢湾を旅して篠島に立ち寄った際に、その海産物のなかでも、特に鯛をことのほかお気に召し、「ぜひ、伊勢神宮へ献上してください」と残して、伊勢に旅立っていったと記されています。

それ以来、1,000年以上にわたって、毎年3回、白装束に身を包んだ島の神職が、島で捕れた鯛508匹を塩漬けに調整し、伊勢神宮から賜った「太一御用」の幟をかざし、船団を仕立てて対岸の伊勢神宮内宮へ献上しています。この鯛のことを「おんべ鯛」と言います。

この縁もあるのか、伊勢神宮で20年に1回行われる「式年遷宮」で、それまで伊勢神宮のお社に使われていた材料は、篠島の神社に移築され、篠島では伊勢神宮の1年後にその「御遷宮」がお下りの材料で行われます。

毎年10月12日には、このおんべ鯛を伊勢神宮へ奉納する「おんべ鯛奉納祭」が盛大に行われます。

篠島近海は、太平洋から流れの激しい伊良湖水道を経由した潮が通り、その激流にもまれた真鯛の好漁場となっています。そのため、水揚げされた鯛は、身が締まっていて、食べると甘さが口の中にふんわりと広がります。刺身でも潮焼きでも、その美味しさは格別です。古人も愛した篠島名物の鯛料理をお楽しみください。



おんべ鯛

愛知県の奇祭「豊浜の鯛まつり」

海の男たちの祭りは、感動的で勇壮なものばかり。なかでも豊浜の鯛まつりは格別です。長さ10m～18mの竹と、木の骨組みに白木綿を巻いて作った重さ1トンを超す大小の鯛5匹を、祭りの熱気を帯びて火照った身体若者たちが担いで、海や街中を練りまわる奇祭です。

明治18年ころ、祭礼に興を添えようと「ハツカネズミ」の張りぼてをつくったのが最初とされています。その後、魚類になり、大正初期に「大鯛」に、昭和初期には胴内ではやしな海に泳がせるようになりました。

豊浜の象徴とも言える「鯛まつり」、それは歴史と伝統の中で生まれ育ち、人々の心に深く刻み込まれた文化遺産でもあります。



ゆったりと海を泳ぐ「大鯛」

昨今の「鯛まつり」は、そのユニークさで全国的に名を馳せ、平成17年に開催された「愛・地球博」にも出場し、外国の切手にも紹介されるほどになりました。この貴重な財産を後世に残すべく、祭りが近づく、毎年7月中旬の土・日曜日になると、豊浜海岸では、祭りの主役となる鯛が夜間にライトアップされ、土曜の夜には、花火大会も開催されるなど、祭りの雰囲気さをさらに高めています。

最近では、奇祭ということもあり、観光客、特にカメラが趣味のお客様が、団体で遠方からいらっしやるのをよく見受けられます。



毎年多くの観光客が訪れる

魅力溢れる南知多町に、ぜひお越しください。

information

南知多町
〒470-3495
愛知県知多郡南知多町大字豊浜字貝ヶ坪
18番地
電話:0569-65-0711
<http://minamichita-kk.com/> (ふらっと南知多)

平成21年度大規模津波防災総合訓練

中部地方整備局 清水港湾事務所
沿岸防災対策官付沿岸防災調査官
翁長 孝行

1 はじめに

7月4日(土)、静岡県静岡市にある清水港貝島地区をメイン会場とした「平成21年度大規模津波防災総合訓練」が行われました。

この訓練は平成16年に発生したスマトラ島沖地震による津波被害を踏まえ、実践的な訓練を実施することで津波・地震による被害の低減を目指すとともに、地域住民の津波防災に関する知識の普及・啓発を目的として、国土交通省の主催で年1回行われるものです。

平成17年に和歌山県御坊市で第1回目の訓練が行われ、その後、徳島県小松市、宮城県気仙沼市、宮崎県宮崎市と続き、今回で5回目となります。



開会式

2 被害想定

今回の訓練は、東海地震警戒宣言発令後、静岡県中部を震源地とするマグニチュード8.0の地震が発生し、土砂崩れ、家屋の倒壊やライ

フラインが寸断されるとともに、沿岸部では津波による被害が発生しているという想定のもとに行われました。

実際に東海地震が発生した場合、静岡県内のほとんどの地域で震度6弱以上の揺れが発生するおそれがあり、津波の第一波が到達するまでにかかる時間も県内のほぼ全域で5分以内と非常に短く、甚大な被害が生じると予想されます。



被災状況報告

3 訓練概要

訓練は2部構成で実施され、第1部では東海地震警戒宣言発令後の住民・船舶の避難訓練や、地震発生直後の被災情報や対応状況などの情報伝達・情報共有を中心とした訓練が行われました。第2部では参加機関の連携強化を目的とした実働訓練が行われました。陸上、海上、あるいは空で各機関が様々な訓練を展開しましたが、その中で港湾関係の訓練内容を中心に説明していきます。

「船舶避難訓練」

地震に伴う津波により、港に係留

している船舶が陸上に打ち上げられ、陸上施設に大きな被害を与える可能性があります。実際、スマトラ島沖地震では打ち上げられた船舶によって、多くの家屋が被害を受けました。このため、船舶が沖合に避難することは津波による被害を減少させる効果があります。

今回はサテライト会場である静岡県沼津市の狩野川河口部において、東海地震警戒宣言の発令を受け、漁船26隻が安全な沼津港内港へ避難する訓練を行いました。

「海上漂流物撤去訓練」

津波が発生することにより、倒壊した家屋からの木材や家財道具といった様々な漂流物が海上に流れ出すと考えられます。特にコンテナの取扱が多い港では、津波により漂流したコンテナが岸壁などの港湾施設に甚大な被害を及ぼす可能



コンテナ揚収訓練

性があります。また、海底に沈んだ場合には震災後の物資の運搬や復旧作業にも支障を来すおそれがあります。

普段は消波ブロック等の運搬・据付を行っている起重機船を用いて、港湾内に漂流したコンテナをクレーンで引き上げる訓練が社団法人日本海上起重技術協会によって行われました。

「港湾施設被害状況調査」

大規模地震発生後は、陸上のみ

ではなく海上からも緊急物資の輸送を行ったり、あるいは救助した漂流者等を船舶で搬送することも考えられます。その際、船舶が接岸する岸



緊急物資輸送訓練



港湾施設被害状況調査

壁が使用可能であるかどうかを調査する必要があります。

今回の訓練では、中部地方整備局の緊急災害対策派遣隊TEC-FORCE（テックフォース）と港湾工事関係団体とが連携し、岸壁の被災状況調査にあたりました。TEC-FORCE隊員とNPO法人中部みなど防災ネットとが協力し、破損・ひび割れの目視点検、測量器具を用いた変位測量、地盤高さの測定を行いました。また、清水港湾事務所の港湾業務艇「まさき」を使用して、陸上からでは目視できない箇所の被害状況確認を行いました。さらに岸壁のような港湾構造物は陸上部だけではなく、水中部についても調査を行う必要があります。社団法人日本潜水協会の港湾潜水士が海に潜り、被災箇所の確認および撮影を行い、港湾施設の被害状況調査が完了しました。

「流出油防除訓練」

港湾内に油が流れ出したとの想定のもと、浚渫兼油回収船「清龍丸」による流出油防除訓練を行いました。



「清龍丸」による油防除訓練



土砂埋没者救助訓練

「清龍丸」は普段、名古屋港で航路や泊地の浚渫作業を行っていますが、海面に大量の油が流出する事故が発生した場合は、速やかに流出現場に向かい、油回収作業を行います。こうした大型の油回収船は、中部地方整備局以外では九州地方整備局（「海翔丸」）と北陸地方整備局（「白山」）に配備されており、日本の周辺海域で大規模な油流出事故が発生した場合は、概ね48時間以内に現地に到着できる体制がとられています。

「その他の訓練」

前述した訓練以外にも、ヘリコプター・船舶による漂流者救助訓練、倒壊家屋に閉じこめられた被災者の救出訓練、負傷者の症状の重さから誰を先に治療するのか優先順位を決めるトリアージ訓練、ガス・水道の応急復旧訓練、緊急物資の輸送訓練など、数多くの訓練が実施されました。

4 おわりに

東海地震の発生は今後30年以内で80%以上とされています。また、東海地震ではありませんでしたが、先日には静岡県で最大震度6弱の地震が発生しました。

地震の発生を防ぐことは出来ませんが、地震による被害の拡大を防ぐ

ことは可能です。

今回の訓練においてもそうでしたが、すべての被害をひとつの組織で対応することは出来ません。各機関それぞれが出来ること・やるべきことをしっかり認識したうえで関係機関と相互協力・連携を図ることが、速やかな人命救助と被災復旧につながっていくと考えます。



漂流者救助訓練



船舶による漂流者救助訓練



輸送艇による緊急物資輸送訓練



水道管応急復旧訓練

5 訓練参加機関(順不同)

関東管区警察局、東海総合通信局、東海財務局静岡財務事務所、関東農政局、中部経済産業局、原子力安全・保安院関東東北産業保安監督部、原子力安全・保安院中部近畿産業保安監督部、国土地理院中部地方測量部、中部運輸局、東京管区気象台静岡地方気象台、第三管区海上保安本部、清水海上保安部、南関東防衛局、陸上自衛隊第一師団第34普通科連隊、海上自衛隊横須賀地方総監部、航空自衛隊浜松基地第一航空団、静岡県、静岡県警察本部、静岡市、沼津市、静岡県社会福祉協議会、静岡市社会福祉協議会、日本赤十字社静岡県支部、独立行政法人国立病院機構静岡医療センター、中日本高速道路株式会社東京支社、東海旅客鉄道株式会社静岡支社、中部電力株式会社静岡支店、東京電力株式会社沼津支店、静岡ガス株式会社、清水LNG株式会社、西日本電信電話株式会社静岡支店、株式会社NTTドコモ東海支社静岡支店、KDDI株式会社中部総支社、社団法人静岡県トラック協会、社団法人日本道路建設業協会中部支部、社団法人静岡県建設業協会、社団法人清水建設業協会、社団法人日本建設機械化協会中部支部、社団法人日本海上起重技術協会中部支部、社団法人日本埋立浚渫(しゅんせつ)協会中部支部、社団法人日本潜水協会名古屋支部、日本港湾空港建設協会静岡県支部、清水港港湾建設工事安全協議会、沼津我入(がにゅう)道漁業組合、日本水難救済会静岡地区水難救済会、NPO法人ふじのくにまちづくり支援隊、NPO法人中部みなど防災ネット、NPO法人静岡県地域づくり研究会、NPO法人静岡県ボランティア協会、清水災害ボランティアネットワーク、静岡エフエム放送株式会社、中部地方整備局

information

国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所 〒424-0922 静岡市清水区日の出町7-2
電話：054-352-4146 (代表) <http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp/>

須崎港における津波漂流物対策の取組 ～『津波による犠牲者ゼロ』を目指して～

国土交通省 四国地方整備局
高知港湾・空港整備事務所 沿岸防災対策官
野町 一司

須崎港は高知市の西南約30km、土佐湾のほぼ中央に位置し、リアス式海岸の形状をした天然の良港です。古くから地域の生産、消費物資を取り扱う港として重要な役割を果たしてきました。昭和40年重要港湾に、昭和44年開港に指定されています。港湾貨物は、高知県全体の約50%（平成20年値）を取り扱っています。

しかし、外洋へのV字型の地形のみなどの宿命ともなりますが、津波の被害を受けやすく、過去幾多の津波により大きな被害を被ってきました。古くは684年白鳳地震津波に始まり、1946年昭和南海地震津波、

1960年チリ地震津波など、記録に残っているだけでも9回の地震津波に襲われています。昭和南海地震津波では、市街地の3分の2が浸水する被害に加え、港湾周辺では木材等の流出により、多くの人命が失われ、壊滅的な被害を受けました。

恒久的な津波対策として、昭和58年より湾口地区での津波防波堤整備事業(直轄)、港内の防潮堤整備事業(補助)が始まりました。平成24年度完成を目指し、一体的に整備しています。全ての施設が完成したとしても、今後30年で60%以上の確率で発生が見込まれている南海地震に伴う津波の浸水エリアをなくすこ

とは難しい状況です。

地元須崎市は、市民の生命と財産を守るため、平成18年に「須崎市津波防災・漂流物対策専門委員会」を設置し、津波による犠牲者ゼロを目指した具体的方策の検討を合計4回重ねました。平成19年3月に開催された第4回専門委員会での最終報告は、概ね以下のようになっています。

- ・津波防波堤供用後の津波は、浸水高、流速共に低減
 - ・木材については、流出防止の観点から、ネット掛けなどの固縛対策が必要
 - ・漂流物が市街地へ流れ込まないように防御ラインを定め、漂流物に対する防御ラインの整備を図る
 - ・避難計画の策定、避難施設の整備
- これを受け、平成20年に須崎市は木材の固縛方法について検討を行い、構造や作業方法の簡素化の必要性等の課題を抽出しています。



図1 須崎港航空写真



写真1 昭和南海地震津波時の木材流出状況

表1 近年の地震津波による被害状況

発生年	津波の名称	震源地	地震の規模	須崎市の犠牲者
1707年	宝永南海地震津波	紀伊半島沖	M8.6	400余名
1854年	安政南海地震津波	〃	M8.4	約50名
1946年	昭和南海地震津波	〃	M8.0	58名
1960年	チリ地震津波	チリ沖	M8.5	0名

須崎港の津波漂流物への対策を進めるにあたっては、関係者(行政、地元関係者)における目的意識や情報の共有が必要です。平成21年5月に「須崎港漂流物対策に向けた連絡調整会議」が設置されました。第1

回会議では、専門委員会での最終報告結果や、漂流物対策に関する行政の取組状況について報告がありました。

次のステップとして、減災対策の具体化に向けた取組紹介と地震津

波に対する防災意識の高揚を目的とし、「津波対策を考えるシンポジウム～『津波による犠牲者ゼロ』を目指して～」が平成21年7月に開催されました。須崎市長から漂流物対策などの取組状況、国から全国での津波対策事例と須崎港湾口防波堤の整備状況、高知県から南海地震に対しての県の取組状況の紹介がありました。シンポジウムは定員200名のところ、予想をはるかに超える約300名の市民の参加がありました。皆、講演内容に熱心に耳を傾けており、地域の防災意識の高さを伺うことができました。

手探りで一步一步進めている状況ではありますが、漂流物対策の具体化について、今後とも取り組んでいきたいと考えています。



写真2 須崎港木材はえ(山積み)の現状



図2 津波漂流物捕捉施設(イメージ)



写真3 シンポジウム開催状況

国土交通省防災訓練

国土交通省 港湾局 海岸・防災課 災害対策室

はじめに

毎年、9月1日の防災の日の前後を防災週間として、全国各地で防災訓練が行われています。防災の日の由来はご存じの方も多いかと思いますが、1923年に多大な被害をもたらした関東大震災が発生した日です。国土交通省でも毎年防災訓練を行っておりますが、本稿では今年度行った「政府全体の総合防災訓練」、「国土交通本省職員の徒歩参集及び安否確認訓練」、「港湾局において実施した緊急参集訓練および初動対応訓練」の3つの訓練について紹介します。

1 政府全体の総合防災訓練

今年度の政府全体の総合防災訓練は、首都直下地震(午前7時に発生)

を想定し、9月1日(火)に行われました。

首都直下地震は東京湾北部を震源とし、マグニチュード7.3、最大震度6強の地震と想定されており、今後30年以内に発生する確率は70%とされ、近い将来に発生する可能性が非常に高いと言われている地震の1つです。中央防災会議「首都直下地震対策専門調査会」による被害想定は、死者約1.1万人、負傷者約21万人(うち重傷者約3.7万人)、帰宅困難者約650万人、建物全壊約85万棟(うち火災焼失約65万棟)と想定されています。

当日の朝、国土交通省でも本省幹部等が早朝に緊急参集し、非常災害対策本部会議、緊急災害対策本部会議が行われました。非常災害対策本部会議には、事務次官が本部長とな

り国交省幹部が参集して行われ、港湾等各局からこれまでの対応状況について報告が行われました。緊急災害対策本部会議では、官邸から戻られた金子前国土交通大臣が本部長となり、その席上、大臣は各局からの対応状況と今後の対応方針の報告を受けた後、今後の対応方針について指示をされました。また、港湾局からは各港の被災状況および川崎港東扇島地区の基幹的広域防災拠点における今後の復旧予定・運用方針等を報告しました。

2 国土交通本省職員の徒歩参集及び安否確認訓練

平成19年6月、国土交通省では首都直下地震(東京湾北部地震M7.3)を想定した業務継続計画(以下、国交省BCP)が策定されましたが、その初動対応の基本となる参集訓練が9月1日(火)に行われました。国交省BCPでは基本的には全職員が参集することになっていますが、首都直下地震の被害想定では「公共交通機関が分断されて麻痺状態になっている」と想定しているため、全員徒歩又は自転車で参集することとしています。また、参集する職員の住居は近い人もいれば遠い人もいるので、



緊急災害対策本部運営訓練状況

国交省BCPでは時間帯毎に参集できる人数を想定し、行う業務内容を決めています。

今回の訓練では60分以内に参集することが可能なところに住んでおり、政府全体の総合防災訓練に参加する職員に限定して、港湾局職員3人を含む39人が徒歩や自転車で参集しました。通勤距離が20km以内の職員については、地図上に図示することで参集経路を確認する机上訓練を実施しました。

また、参集訓練の実施にあわせて、安否確認訓練を実施しました。安否確認は、近年の地震の事例から、電話は地震時には不通になることが多いほか、仮に通じていたとしても、一人ずつ順番に電話をするため、どうしても時間を要してしまうという欠点が明らかになっています。これに対し、携帯メールなどのパケット通信は、地震などの災害時であっても比較的繋がりやすく、各職員が同時に作業を行うことが可能となります。そこで携帯メールによる安否確認の実施に向け、国土交通省では

サーバーに専用アドレスを設けており、今回の訓練ではこれがきちんと機能することを確認するために、当日、連絡可能な全職員を対象としてメールによる伝達訓練が実施されました。

3 港湾局緊急参集訓練および初動対応訓練

国土交通省のBCP策定に伴い、港湾局では独自の取り組みとしてより具体的な行動を規定する港湾局BCPを平成19年10月に策定し、その後、あらゆる意見・指摘等をふまえ、港湾局BCP(Ver.2)を平成20年3月に策定しました。港湾局BCP(Ver.2)に規定されている初動対応手順の確認を目的として、本年5月23日(土)に港湾局において緊急参集訓練およびRPG方式による初動対応訓練を実施しました。

訓練には港湾局海岸・防災課をはじめ18人が参加して、港湾局BCP(Ver.2)で規定された被害想定や通信機器条件で、徒歩等による参集訓

練、情報伝達訓練を実施しました。訓練では、発生するイベントは予めプレイヤーとなる参加者には周知されず、より臨場感あふれた訓練となりました。訓練で得られた課題については、港湾局BCPのさらなる改善や必要な体制の整備に役立てることにしています。

おわりに

今年度、現在までに実施された防災訓練では、港湾局のほとんどの職員が何らかの訓練に参加しており、実際に徒歩参集訓練を実施した職員からは、「実際に経路を確認できた。」「想定しているルートはガラス張りのビルが多く、地震の直後に通過することは困難だと思う。」などの感想、意見が上がるなど防災意識の向上を図ることができました。今後も国土交通省全体の訓練のみならず、港湾局としても訓練を継続して実施し、災害発生時においても迅速に業務継続体制が確立できるよう努めて参りたいと思います。

Topics

国土交通省港湾局海岸・防災課人事異動

氏名 異動年月日 新 旧

転出

マエダ ケイ
前田 敬 H21.10.16 海事局 外航課 海運渉外室 業務係長 港湾局 海岸・防災課 沿岸域管理係長

海での思い出

☆ほ

私が育ったところは、北海道の石狩市というところで、札幌中心部までは、車で30～40分、小樽市まで車で30分くらいのところにあります。

海までは、砂浜であれば車で10分～15分。岩浜だと1時間もかからないかと思えます。

小さい頃から、夏はよく海に連れていってもらいました。砂浜だったこともあれば、岩浜だったこともあります。今はもう埋め立てられて港になってしまいましたが、「四線浜」と呼んでいた砂浜は遠浅で、小学校の遠足でも訪れたところです。

砂浜では、ビーチボールで遊んだり、トンネルや砂団子を作ったりしました。気が向くと泳ぐのをやめ、足の裏でさぐって貝を採りました。運が良ければ「北寄貝」という大きな貝にあたることもあり、これをとったときは親から誉められるので頑張った記憶があります(貝等は勝手に採ってはいけません!)。ただ、この作業は「貝が足の裏にあたるまで、ずっともさもさぐっていく」という、大変地味な作業なので、子どもの私はすぐに飽きてしまい、誉められることはほとんどありませんでした。

岩浜は、沖まで出ると海の透明度が高く、砂浜で泳ぐよりずっとずつと気持ちがいい!! のですが、足のつかないところへ辿り着くまでが不快……。まず、波が荒くて、体を岩に打ち付けられ、足が擦り傷だらけになります。そして、海藻が足をなでるのが気持ち悪いのです。「海を泳いでいたら、海藻に足をひっぱられた。よく見るとそれはたくさんの人

間の手で、海の底に引きずり込まれた。ギャー!!」という怖～い話を必ず思い出してしまい、早く海藻のないところになくっちゃ!! と焦ってバタバタと泳いでいたが、端から見るとその光景はなんとも滑稽らしく、兄によくバカにされていました。

たくさん海で遊んだ中で、嫌な思い出もあります。あれは、小学校の高学年くらいのことだったと思います。普段はめったにしないのですが、そのときは浮かっていたのでしょう。砂浜を裸足で歩いていました。最初は、「あれ? 痛痒いなあ」とそんなに気にもかけていなかったのですが、波打ち際で何の気なしに足の裏をひょいっと見ると、ぐっさり切れて血がじょぼじょぼと出ているではありませんか!! どうやら、砂浜の中にガラス片があったらしく、それで足の裏を切ってしまったようです。傷口には砂が入り込んで、砂をとろうにも痛いし、消毒液もないし、親には「なんで裸足で歩いたの!!

裸足は危ないって何回も言ってるでしょ!」ってひどく怒られるので、べそべそと泣いた記憶があります。

大人になって、オーストラリアのゴールドコーストへ旅行した時に、砂浜を円盤みたいな機械で金属片なんかを探知して海辺をきれいにする人たちがいて、ああ～あの時にもこの人たちがいたら、足が切れなかったのにね……などと思いましたが……それ以前にどうしてゴミを捨てる人がいるんでしょうかね?

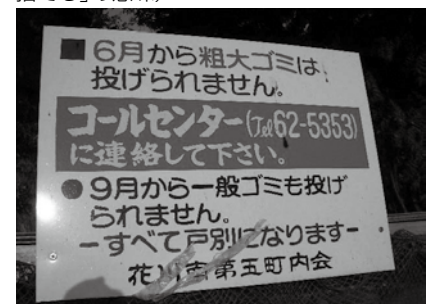
私も何度か海岸のごみ拾いに参加

したことがあります。小学生の時は、遠足で。その時のゴミは、だいたい瓶や缶、お皿や箸などの海でジジスカンをしたけれど、ゴミは持って帰らなかったと見受けられるものがほとんどでした。一学年160人くらいで拾って、私の当時の背丈(推定150センチくらい?)のごみ山が3つもできました。

働いてからは、「クリーンアップ日本海」という行事に参加しました。これは海開きの前に海岸をきれいにしようと、スタート地点から何キロかみんなでゴミを拾いながら歩くものです。瓶や缶は当たり前ですが、ハングル文字や中国語?と思われるような海外からのゴミも多かったです。それと、誰がこんなところまで持ってきたのか不思議に思う冷蔵庫やテレビなどの家電もごろりごろりと転がっていました。だいたい毎年1トン近いゴミが集まるそうです。石狩市の一部だけで1トンなんですから、日本全部だとどれくらいになるのか、想像するのも恐ろしい!

最後に、何度も同じ事を聞いたり、読んだりして、みなさん「耳たこ」かと思いますが、どうかどうかゴミを投げないでください!!

(注:「ゴミを投げる」は北海道弁で「ゴミを捨てる」の意味)



波止めとなぎさの釣りバカ日誌

第3話・博多編

やすべえ

168号(平成18年6月発行)の第2話以来途絶えていた「なぎさの釣りバカ日誌」を3年ぶりに再開します。これを機にタイトルもさらに駄洒落を利かせて、本誌に相応しいものにしました(タイトルの傍点)。語呂が悪いのが難点ですが……。何話分ネタが続くかは分かりませんが、頑張ります。

さて、自称「みなとの浜ちゃん」の私は、7年前の鹿児島在勤中に釣りを覚えました。普段は陸(おか)っぱり(陸上からの釣りをこう呼びます。陸釣りとも言いますが、これは別の意味にも転じますので使わないほうが無難)が中心です。釣り方は、カゴ、フカセ、投げ・ブッコミによる餌釣りで、ルアー系はどれも苦手です。そのなかでも、鹿児島の波止め釣りから入ったこともあってか、カゴ釣りが好きです。遠投の爽快感が何とも言えません。目標は遠投カゴで良型の真鯛を釣ることです。真鯛

を狙って、鹿児島港、鹿児島県の黒之瀬戸、熊本県の天草(三角港)、長崎県の平戸瀬戸(白浜漁港)、佐賀県の呼子港、福岡県の宗像大島(大島港)、伊豆の網代漁港、宇久須港等に通いましたが、未だ手の平サイズが最高です。陸っぱりで大物真鯛を揚げるには相当の腕と運が必要なようです。黒鯛やメジナと違い、真鯛は深場にいるからです。

したがって、船釣りが断然有利です。私が真鯛の目標としていた50cmは、釣歴7年目にして壱岐沖で達成しました(写真1)。それは福岡在勤2年目の5月、某新聞社のS氏のお誘いで大枚1万数千円を叩いて久しぶりに行った時の釣果でした。ポイントは水深約90mで、18~20号(1号=1匁、20号=75g)前後のテンヤを使いました。テンヤ釣りは初挑戦でしたが、素人の私にも割と簡単にこの釣果です。常連さんのなかには7~80cmの大物を複数枚仕留

めた人もいました。さすがは玄界灘の船釣り! S氏によれば、玄界灘は真鯛の魚影が日本一濃いのだそうです。仕掛けは写真1のごとく、ビシヨマと呼ばれるテグス(道糸)にテンヤを付け、活きエビを餌に魚を誘います。船頭さんによれば、餌釣りよりルアーに近い釣法だそうです。底取り(仕掛けが着底したかの判別)と誘いの上手下手が釣果を左右します。撒き餌をしないので環境負荷が小さく、大物が釣れる伝統釣法です。福岡近郊の陸っぱりは、どうも東京湾ほど釣れません。「これからはテンヤで大物真鯛だ!」そう思った矢先に東京転勤の命令が下ったのでした。

博多湾の水質を研究されているF大のY教授によれば、下水の高度処理等で栄養塩が少なくなっているのだそうです。「水清ければ魚棲まず」の格言どおりのようですが、釣れない原因は他にもあります。その辺はまた次回。



写真1 玄界灘の鯛(真鯛、連子鯛、チダイ)とヤズ(ブリの子)

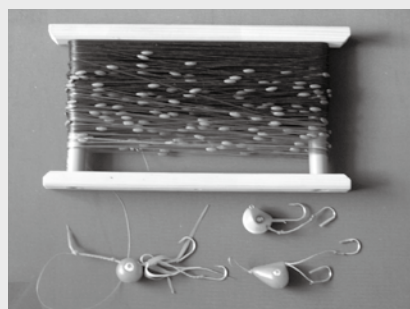
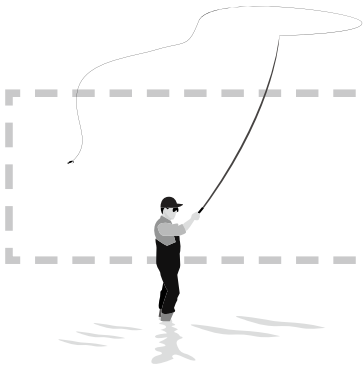


写真2 真鯛テンヤ仕掛け(これで約1万円。羊・リールに比べれば断然安い)



体験型釣り場の安全講習会

公認釣りインストラクター 近藤 康明

1. 後を絶たない落水事故

2007年8月25日、大阪市此花区夢洲の岸壁で釣り人が落水死亡するという痛ましい事故が起きた。釣り人の落水死亡事故は後を絶たず、その度に釣り人の安全意識の低さが指摘され、釣り団体や釣り愛好者サークルではライフジャケットの着用励行、自己救命策について話し合われてきた。最も身近で足場の良い釣り場として、“手軽で安全、子供や初心者向け釣り場”の筆頭に上げられるのは港の岸壁や防波堤。しかし、転落落水などの万が一の事態が発生した場合、自力で陸上に戻る可能性は皆無に等しい。岸壁や防波堤は垂直に切り立ち、場所によっては海面から数メートルもの高さである。釣り公園や親水緑地でもない限り、転落防護策はもちろん、救命浮き輪・救命ロープなどの救難設備も

なければ、落水者自身が救助を待つ間にすがりついていられる手掛かりさえもない。

...

冒頭の落水死亡事故では、この点が問題になった。死亡した釣り人のご遺族が、港湾管理者である大阪市と、渡船業者の管理責任を問う訴えを起こしたのである。2008年8月27日、これを受けて大阪市は大阪市港湾施設条例第9条第1項にかかる立ち入り禁止区域の指定を行い、違反者には罰金5万円を科すとの方針を打ち出し、パブリックコメントの募集を開始した。これには普段は行政や法令に無関心な釣り人もさすがに驚いた。実質的に大阪南港釣り公園以外の大阪港全域が立入禁止となり、釣り人が追い出されるという事態になったからである。寄せられたパブリックコメントはおよそ1300通、そして社団法人全日本釣

り団体協議会、財団法人日本釣り振興会といった釣り団体や有識者と、港湾当局との公式的な公開の協議会が開催された。2009年7月、ライフジャケットの正しい着用、単独釣行は避けるなど安全対策の遵守、ゴミ放置厳禁などのマナー徹底を条件に、大阪港全域の立入禁止規制は一応回避される事となったが、釣り愛好者全員に周知徹底するのは簡単なことではない。

2. 釣り人の意識啓発の必要性

そもそも、護岸や防波堤は産業振興や国土保全を目的として作られて



海上保安官と救急隊員の協力を得て実施



ベーシック型体重 50kg代

自動膨張式

ベーシック型体重 80kg代

ウエストポーチ型

ライフジャケットの種類別、体格別の浮力実演



スタッフを含め91名が実践体験受講

おり、釣り公園や親水護岸を除けば、レジャー客の立ち入りを前提として作られていないのだから、そこに立ち入る前提として「安全は自らが担保する」のが当然であろう。しかしながら、「元々は自由に入れた海岸だったのに、港が造られたり護岸整備されたりしたら関係者以外立入禁止っておかしいよね？」というのが、釣り人を含めた一般市民の偽らざる本音であり、「何が危険で、どうすれば安全なんだかわからない」という方がほとんどである。それゆえに、よほど嚴重なフェンスやゲートが設けられ、警備員が常駐していなければ、無防備なままで入り込む者はいなくなるし、死傷者や行方不明者が出る痛ましい事故が後を絶たないという事態を招き続けている。

...

この負の連鎖を断ち切るには、海辺で起き得る危険を我が事として実感してもらうしかなかろう。いくら資料を揃えて講習会の壇上で説明しても、遭遇するであろう危険が具体的にイメージできなければ、「お説ごもっとも。でも、自分は大丈夫だよ」で終わってしまうものだ。そこで、所属するJOFI愛知の大田豊明代表と相談し、実践体験型の安全講習会



「アンパンマンのマーチ」で大人顔負け！

の開催を計画した。開催地は名古屋市内から1時間圏内の常滑市りんくう釣り護岸。開催日は秋の釣りシーズンを間近に控え、夏休み最終日曜日の8月30日に定めた。

3. 実践体験型釣り場の安全講習会の企画

当初の計画は海上保安庁第四管区海上保安本部に講師派遣と協力を要請し、海上保安官によるライフジャケットの重要性と機能の解説、救命ロープを作るためのロープワーク、そして落水者を発見した場合の対応、落水してしまった場合の心得を

実地指導していただき、救難ボートによる落水者救助を実演していただくというもの。落水者救助の実演では自動膨張式、手動膨張式、ポーチ型、浮力体を内蔵したベーシック型の各種ライフジャケットを着用して落水し、それぞれがどのように機能し、どれくらいの浮力があるのかを、実際の釣り場で実演してみせる。実演者はJOFI愛知に所属する釣りインストラクター。しかし、実際の重大事故の多くは、ライフジャケット未着用で落水した場合である。ならばライフジャケットなし、無防備の転落落水も実演して見せようという話になった。JOFI愛知にはスタント経験があり、着衣泳の心得もある釣りインストラクターがいる。

...

こうして準備を進める中、「海上での救助活動は海上保安庁で間違いはないけれど、陸上での救護活動は消防署の救急隊じゃない？」という点に気付いた。港や地磯での救助活動も消防のレスキュー隊の仕事である。早速、講習会会場の所轄である常滑市消防本部消防署に講師派遣と協力を要請したところ、陸上での救護活動として心肺蘇生法とAEDの使用方法についてのご指導を快



救助を待つ間は身近なモノで浮力確保

もし、無防備で落水したら……

諾いただけだ。こうして海上保安官と救急隊員のコラボレーション講習が実現する運びとなった。この間にりんくう町の護岸管理を管轄する衣浦港務所、愛知県企業庁に行事開催届を提出、常滑市役所には参加者用の特設駐車場の便宜も図っていただいた。4月初旬から企画立案と準備を始め、関係各所に届出と協力を要請、実行委員会の編成が終わったのは7月中旬であった。主催者であるJOFI愛知メンバーの尽力で、大手釣具量販店の協賛と、東京ドームの天井を作った太陽工業株式会社から災害時緊急エアテント「マク・クイックシェルター」までお借りすることができた。

●●●

準備万端整った、と安心したのもつかの間、7月21日に衆議院が解散し、講習会開催日の8月30日が選挙投票日になってしまった。今さら日程変更は不可能。午前中のイベントであることから、開催によって不都合が生じることはないが、来場参加者は減るであろうし、マスコミも地元ケーブルテレビ1社を除いてどこも取材に来ないという大ピンチ。当初予定していた総動員数は100名が目標。最低でも80名は来ていただきたいと期待していたのだが、それも難しくなってしまう、暗澹たる気持ちで講習会当日を迎えた。

4. 講習会当日の状況

ところが、午前9時の受付開始の時点で、すでに40名近い釣り人が集まり、10時の開催時刻には60名もの釣り人が参加していた。第四管区海上保安本部警備救難課の海上保安官の安全講話が始まると80名を超え、ライフジャケットの機能と構造を熱心に聞き、ロープワークの実

践にも全員が参加。10時30分、本日の目玉企画である落水実演開始。最初の落水実演はライフジャケットなしの無防備落水。水面までの高さ2.5mの護岸から、実際の転落落水事故を想定して背中から転落。「ドッパーン！」と大きな落水音と派手に吹き上がる水飛沫に、参加者からどよめきの声上がるが、姿が完全に見えなくなるほどの水没と、湧き上がる水泡に全員が息を呑む。落水実演者がゆっくりと浮上してくると拍手が起きた。この拍手は「無防備なのに派手に飛び込んだね～」ではなく、「よかった～、無事に浮かんできた！」の拍手である。実際の釣り場で、自分の目の前で、生身の人間が転落するのを目撃した驚き。落水の瞬間を見て、「たかが2.5mの高さでも、あんなに凄まじいとは……」と、ほとんどの参加者が絶句。無防備での転落落水の怖さを実感したことであろう。浮上してからは「浮き身姿勢」で救助を待ち、陸上からペットボトルやクーラーボックスを投げ入れてもらって浮力を得るなど、救助の到着を待つ方法を紹介し、海上保安庁の救難ボートに引き揚げ救助されて無防備落水の実演は終了。続いて体格の違う釣りインストラクターが、各種のライフジャケットを着用して落水実演。落水後にどのように機能するかを実際に見ることで、その有効性を実感できたと思う。

●●●

11時30分、常滑市消防本部消防署救急隊の心肺蘇生法とAED使用の実践講習開始。気温30度を超える暑さの中で、多くの参加者が心肺蘇生法とAEDの使用方法を学んだが、救急隊員も驚く腕前を習得した参加者がいた。それは小学校低学年の女子児童。真剣に受講してはいても、気恥ずかしさから実践行動は今ひとつ、という大人を尻目に、汗びっ

しょりになりながらも、素直に指導通りの心肺蘇生法を実践した彼女は、1分間に100拍の「アンパンマンのマーチ」を口ずさみながら、しっかりと胸骨圧迫(心臓マッサージ)を行えるようになったのである。

●●●

愛知県は2006年に開催された「愛・地球博」でAEDがいち早く導入され、心肺停止状態に陥った5人の方々のうち、一般市民の心肺蘇生法とAEDによる救護活動によって、4人の方が無事に社会復帰を果たしている『AED先進地域』であるが、ペースメーカーを埋設している場合のパッド貼り付け位置や、妊婦への使用も問題なし、など実際に遭遇し得る事態への対応方法を再確認した。講習会終了後、救急隊の方々にお礼を申し上げに行ったところ、「これだけ大勢の方が、一人残らず真剣に受講してくださった例はほとんどない。これからも喜んで協力しましょう」と、お褒めの言葉をいただいた。

●●●

午後12時15分、海上保安官と救急隊員との記念撮影会。子ども達は「本物のレスキューフォースだ！」と大喜び。実際に言葉を交わし、共に行動することで親しみを感じ、かつ、頼りになる存在として尊敬の目を向けていた事も書き加えておく。

5. 講習会を終えて

今回は第一回の開催で、全てが手探り状態であったが、スタッフを含めた総動員数は91名。解散総選挙と重なるという不運にも見舞われたが、関係各方面の協力とスタッフ全員の尽力に感謝するとともに、当初の予定通り多くの方々に参加体験していただけたことを実行委員長として誇りに思っている。

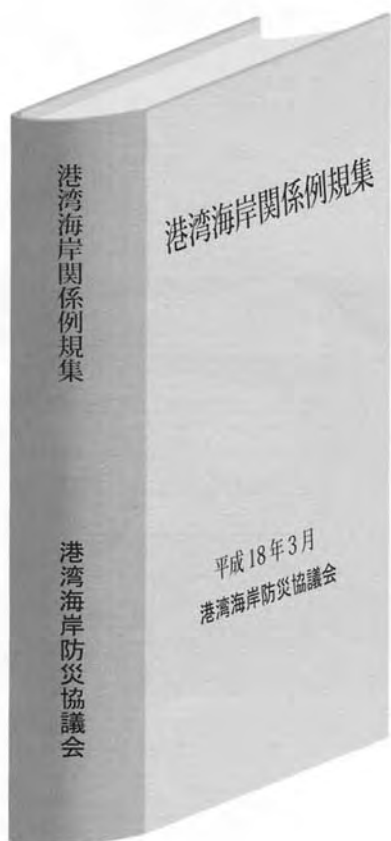
「港湾海岸関係例規集」の販売

港湾海岸防災協議会

当協議会では、港湾海岸に関する法令・事例等についてとりまとめた「港湾海岸関係例規集」〔平成18年3月発刊）を販売しています（A5版、550ページ／価格5,250円（税込））。購入希望の方は、当協議会に直接お問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

〒107-0052
東京都港区赤坂3-3-5 国際山王ビル8F
（社）日本港湾協会内
港湾海岸防災協議会
TEL：03-5549-9575



●目次 あらまし

第1編 海岸法関係

- 第1章 海岸に関する基本法令等
- 第2章 海岸保全区域
- 第3章 海岸保全区域台帳
- 第4章 海岸管理
(占有及び行為制限等)
- 第5章 直轄工事
- 第6章 海岸の基本計画
- 第7章 海岸事業の実施
- 第8章 その他

第2編 国有財産法令等

- 第1章 国有財産に関する法令等
- 第2章 補助金に関する法令等

第3編 関係法令

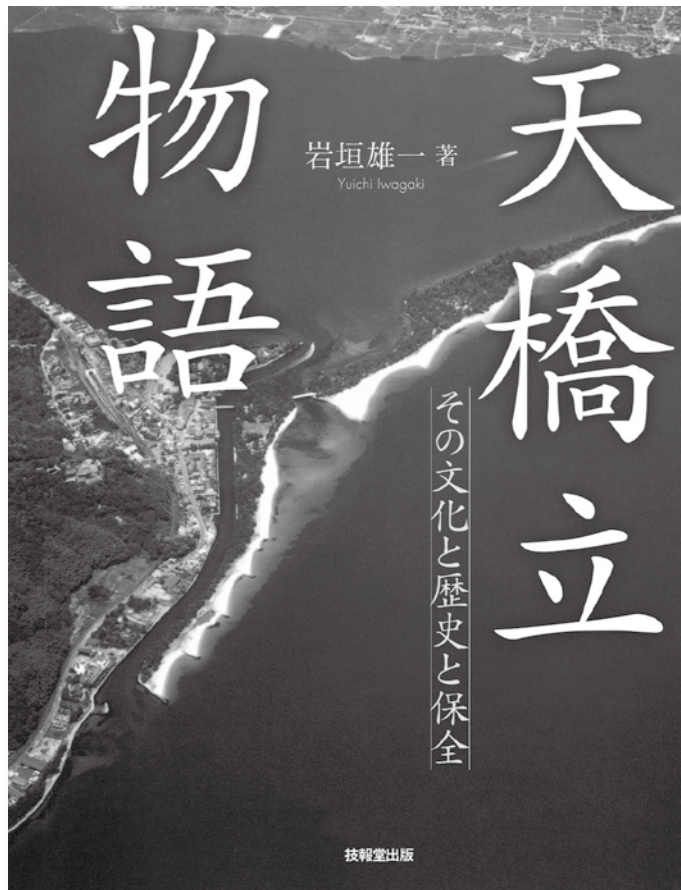
お 知 ら せ

「天橋立物語—その文化と歴史と保全—」販売中！

国土交通省 港湾局 海岸・防災課

本書は日本三景の一つである天橋立の魅力とその生成、変遷について海岸工学的に解説するとともに、天橋立を取り巻く縄文から現代に至る丹後の文化や歴史を、我が国建国の基であるヤマト王権の成立、発展の歴史や、和泉式部、雪舟の作品と絡めて丹念に記述した天橋立に関する総合案内の書と言えます。

現在、ユネスコの世界遺産への登録をめざすなか、地球温暖化による海面上昇等の危機に対し、これからの天橋立をいかに保全していくかの指針を海岸工学の権威である著者が示したものです。現在、全国書店にて絶賛発売中です。



定価● 3,000 円+税

版型● A 5 版ハードカバー・342 ページ

ISBN● 978 - 4 - 7655 - 1721 - 8

発行● 技報堂出版株式会社 TEL : 03-5217-0885

著者略歴

岩 垣 雄 一 (いわがき ゆういち)

鳥取県出身。京都帝国大学卒業。

京都大学名誉教授、名城大学名誉教授。

｜ 編 ｜ 集 ｜ 後 ｜ 記 ｜

特集「なぎさに親しむ」いかがだったでしょうか。

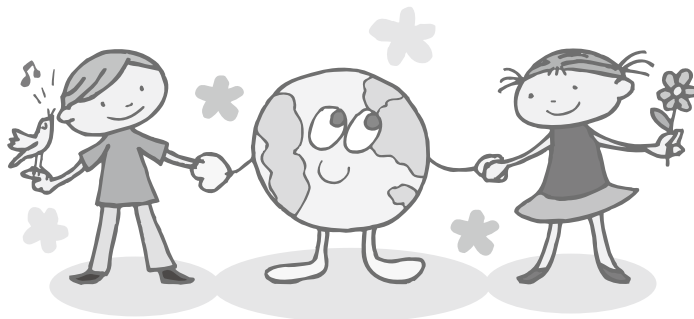
皆さんはこの夏、海で遊びましたか？

本号で紹介したように全国各地いろいろなイベントが催され、海辺もにぎわったことと思います。子供たちの元気な姿を見ると、自分が子供だったころ、うだるような暑さの中、遊び回っていたころが懐かしく思い出されます。

この夏も暑かったように思いますが、実は東京は猛暑日がない冷夏だったそうで、地球温暖化の中、気象状況は混沌としているようです。防災関係の先生が言われていますが、ゲリラ豪雨の発生、台風の巨大化、いろいろな災害の複合化など、災害の形態がより複雑化しているようなことも心配です。海辺は楽しい遊びや、憩いの場でもありますが、一方で高潮、津波などの危険と隣り合わせの場でもあります。10月に台風18号が日本列島を直撃しました。海外では太平洋沿岸で地震と津波がこのところ立て続けに起きています。これからますますこのような災害に備えることが大事になってくると思います。

いろいろなことが世の中で起こっていますが幸せな未来であってほしいと思います。

海をみてそんなことを考えました。



原稿募集のお知らせ

本誌では、読者相互の交流・情報交換を図るため、読者の皆様からの投稿コーナーを設けています。採用させていただいた方には薄謝、掲載誌を差し上げます(応募者多数の場合は、すべて掲載できないこともあります)。皆様のご応募、お待ちしております。

■コラム「私と海岸」(毎号2名程度掲載予定)

ビーチ・海岸に関わる趣味の話、体験談、失敗談、おもしろ話、身近なこと、旅行話等、なんでも結構ですので、気軽にご投稿ください。

- ①文字数:1,000~1,500字程度(本誌1ページ分) ②テーマに沿ったお写真2~3枚程度

■「TOPICS」

「波となぎさ」に掲載された活動の“その後”をお知らせしたい、「今、こんな取り組みをしています」——そうした情報の原稿をお待ちしています。

- ①文字数:1,500字程度(本誌1ページ分) ②テーマに沿ったお写真、図表2~4枚程度

■「ビーチライフ」

皆様の「ビーチライフ」に関するさまざまな活動や体験についての原稿を募集します。

- ①文字数:4,000~6,000字程度(本誌2ページ分) ②テーマに沿ったお写真、図表3~7枚程度

■原稿締切

○182号(平成22年1月発行予定)掲載希望の場合:12月2日(水)

■原稿送付先: 郵送、FAX、メールにて承ります。

原稿形式は、データ、原稿用紙いずれも承ります。原稿送付の際には後日編集部からご連絡させていただきますので、ご連絡先等を必ず明記してください。

- ①郵送先:〒107-0052 東京都港区赤坂3-3-5 国際山王ビル8階 日本港湾協会内 港湾海岸防災協議会
「波となぎさ」編集担当宛

- ②FAX:03-3505-5400

- ③e-mail:yoshioka@tbss.co.jp

※原稿に関するお問い合わせは上記連絡先③へメールにてお問い合わせください。



発行 平成 21 年 10 月 30 日

発行所 港湾海岸防災協議会
〒 107-0052 東京都港区赤坂 3-3-5 国際山王ビル 8 階
TEL. 03-5549-9575 (代表)

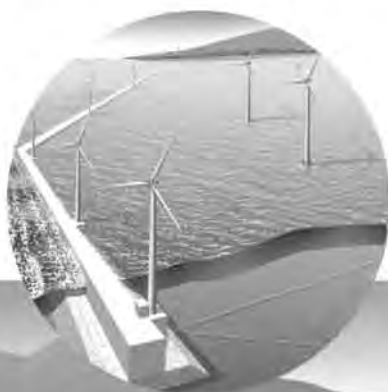
発行兼編集者 廣田 幸久

印刷所 株式会社 TBS サービス
〒 107-8482 東京都港区赤坂 5-3-6
TEL. 03-3505-7148

本誌の購読については、上記発行所にお問い合わせください。

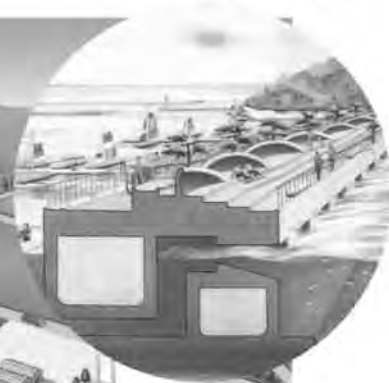
沿岸域の環境創造

五洋建設が培ってきた海洋土木技術は、多岐にわたる沿岸域の再生と創造を可能にします



陸上、洋上、臨海部への
風力発電事業

親水性護岸・
防波堤の築造



磯場の生物生息
メカニズムを検証



干潟・海浜の
機能再生技術



豊かな漁場を創る
人工魚礁の技術



アマモの最適
生育条件の構築と移植

つくることから 育むことへ



東京都文京区後楽2-2-8
<http://www.penta-ocean.co.jp>



人と地球にあたたかな技術、 ハートテクノロジー。

海の息吹、大地の鼓動、そして都市の活気。
地球の自然と快適な生活の調和こそ、私たちの願いです。
人にあたたかな技術を追究し、夢を確かなカタチに育て、
感動の明日を築いていきます。



〒135-0064 東京都江東区青海二丁目43番地 青海フロンティアビル TEL(03)6361-5450

Coast (コースト)

階段式傾斜堤ブロック工法



生命の源——海



私たちがいま存在するのも、地球に海という深
遠な世界があるからです。人を誘い、無限の底力
をもつ神秘と魔力の海——何かを考えたい——
そんなひとときと空間を大切にしたいと考えます。



日建工学株式会社

NIKKEN KOGAKU CO., LTD.

本社／総合技術研究所 〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-10-1 (日土地西新宿ビル17F)
本社 TEL.03-3344-6811(代)
総合技術研究所 TEL.03-3344-6081(代)

■事務所 北海道 TEL.011-642-1737 東北 TEL.022-266-5771 関東 TEL.03-3344-8675 北陸 TEL.025-281-8005
中部 TEL.052-777-6351 近畿中国 TEL.06-6821-7900 徳島 TEL.088-825-2770 四国 TEL.089-945-4266
九州 TEL.092-431-7776 鹿児島 TEL.099-258-7841 沖縄 TEL.098-831-9577

<http://www.nikken-kogaku.co.jp>

こころを刻む。



私たちの暮らしている社会は
少しずつ変化し、成長しています。
若築建設は、しっかりと今を見つめながら、
人のこころを刻む企業として、
一步一步着実に歩み続けます。



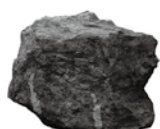
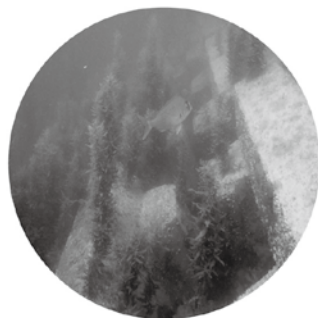
豊かな未来へ 技術のメッセージ

若築建設

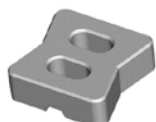
〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-23-18
TEL. 03-3492-0271
FAX. 03-3490-1019

技術と信頼で未来を創る

長年にわたって培ってきた技術と信頼とによって
障害から国土を、そして人々の生活を護り
安全で住み良い未来を創ります



かんらん岩



ロウタスユニ



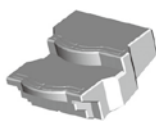
六脚ブロック



ビーハイブ



バラクロス



アゴスW

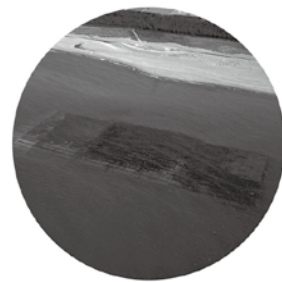


トライアン



ビーハイブS

国土保全
環境創造



技研興業株式会社
<http://www.gikenko.co.jp/>

本 社

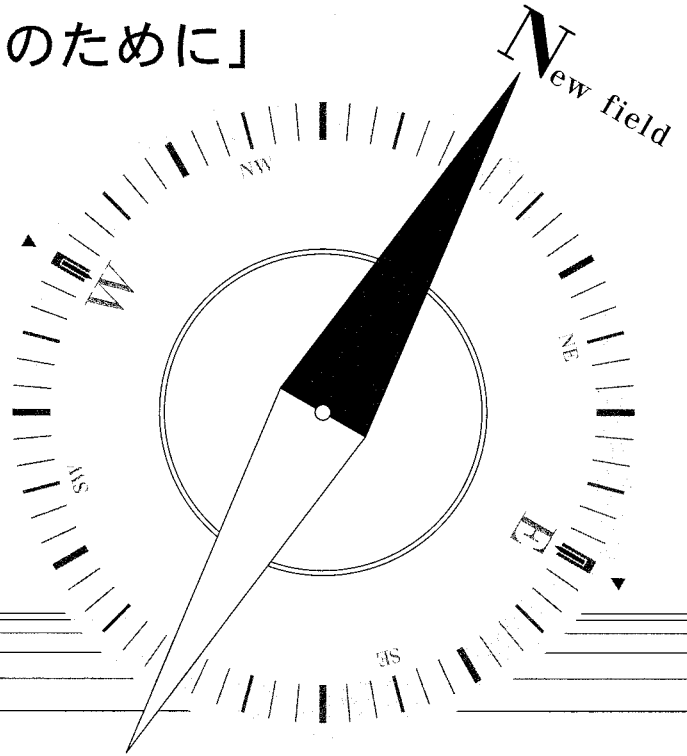
東京都杉並区阿佐谷南三丁目7番2号
TEL 03-3398-8521 FAX 03-3398-8553

針路は、

「安全・安心な生活環境のために」

不動テトラグループは、
独自の技術と創意工夫で、
豊かで安全な環境づくりに貢献しています。

その新しいフィールドは、
海の底から山の上まで拡がり
災害に強い国土づくり、
安心して暮らせる社会基盤の整備に
お応えします。



株式会社 不動テトラ

東京本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町7-2 TEL.(03)5644-8500
大阪本社 〒541-0047 大阪市中央区淡路町2-2-14 TEL.(06)6201-9203

<http://www.fudotetra.co.jp>

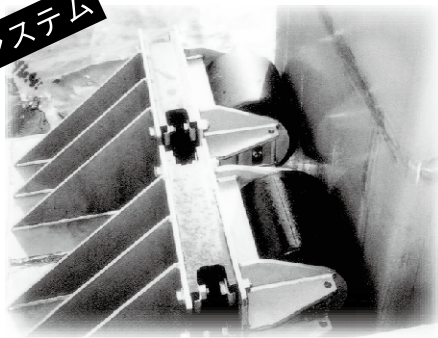
SHIBATA の港湾・海岸資材

シバタ工業の多種多様な港湾・海岸関連資材は日本国内だけでなく世界各国で多数採用いただいております。

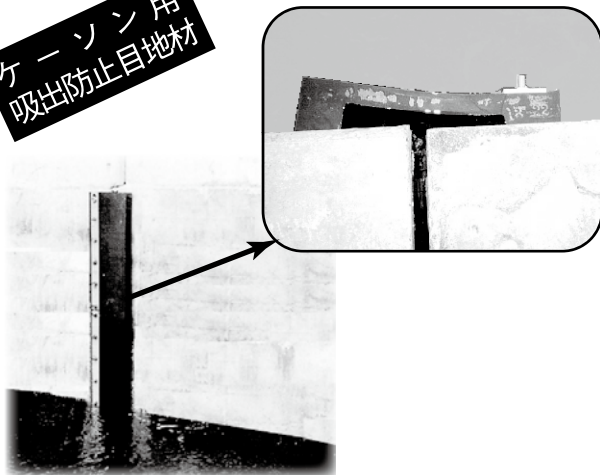
ゴム製安全梯子



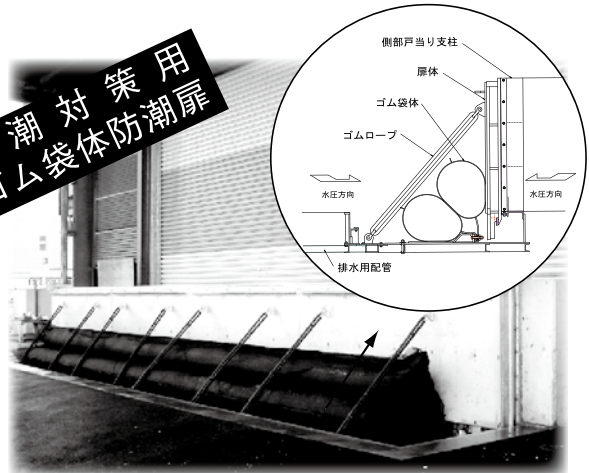
浮体式係留システム



ケーソン用
吸出防止目地材



高潮対策用
ゴム袋体防潮扉

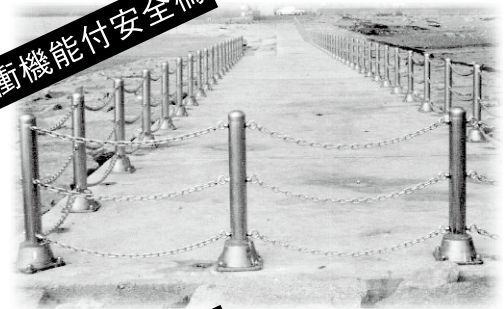


(豊国工業株式会社製造)

遮水シート



緩衝機能付安全柵



バリアフリー
歩行支援ゴムマット



～「ゴム+α」の複合素材で、環境・防災・安全に貢献する～

シバタ工業株式会社

本社工場 〒674-0082 兵庫県明石市魚住町中尾1058
 東京支社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-27 (ロータリービル3F)
 神戸支社 〒650-0023 神戸市中央区栄町通4-1-10 (新和ビル5F)
 支店・営業所 / 札幌・仙台・千葉・横浜・名古屋・松山・福岡・長崎

本社・工場
ISO 9001 & ISO14001 認証取得
<http://www.sbt.co.jp/>

TEL.078-946-1515 FAX.078-946-0528
 TEL.03-3292-3861 FAX.03-3292-3869
 TEL.078-362-6030 FAX.078-362-6094

